

城陽未来まちづくり会議 (55人委員会)



報告書

令和5年(2023年)3月

城陽市 企画管理部 秘書広報課

目 次

第1章	城陽未来まちづくり会議の実施概要	1 頁
第2章	議論に向けて	5 頁
第3章	各班のグループワーク、発表内容	6 頁
第4章	まとめ	22 頁
第5章	資料編	26 頁

第1章 城陽未来まちづくり会議の実施概要

1-1 会議開催の目的と位置づけ

城陽未来まちづくり会議は平成26年度（2014年度）から始まった取り組みです。これまで行政に声を届ける機会が少なかった市民の方に、市政への参加を促し、その意見を市政に取り入れること、またそのことを通じて市民意識の高揚を図り、市民活動の担い手の掘り起こしにつなげることを目的に開催しています。従って、会議での意見については、諮問に対する答申や提言といったものではなく、「幅広い市民の声」として位置づけられるものとなります。

1-2 参加者について

（1）参加希望者の選定

住民基本台帳から市民1,800人を無作為に抽出し、城陽未来まちづくり会議への参加依頼書を送付しました。あわせて会議についてのアンケート調査を実施しました。

（2）参加募集の人数

参加募集の人数は55人です。城陽市（以下、「本市」）が京都と奈良のほぼ中間に位置し、古くから「五里五里の里」と呼ばれることにちなんで、55人としました。

（3）参加者の決定

参加依頼の結果、54人から参加承諾をいただき、参加者として決定しました。参加決定した54人のうち、当日は49人が参加されました。

（4）参加者の属性

（単位：人）

	久津川		古川		寺田		寺田南		寺田西		深谷		久世		今池		富野		青谷		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
10～20歳代	1	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	11
30歳代	0	0	1	1	2	1	1	1	1	0	0	2	2	0	2	1	1	1	0	1	18
40歳代	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
50歳代	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
60歳代	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
70歳代	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	2	0	0	0	8
80歳代以上	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
男女別計	3	2	2	5	5	3	1	1	3	1	2	3	4	1	2	2	3	3	0	3	49
総計	5		7		8		2		4		5		5		4		6		3		

1-3 城陽未来まちづくり会議の概要

テ ー マ：「ゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと」

開 催 日：令和4年（2022年）11月6日（日）

10：00～12：00、14：00～16：00

（同じプログラムを午前の部、午後の部でそれぞれ実施）

開催場所：オンラインにて開催

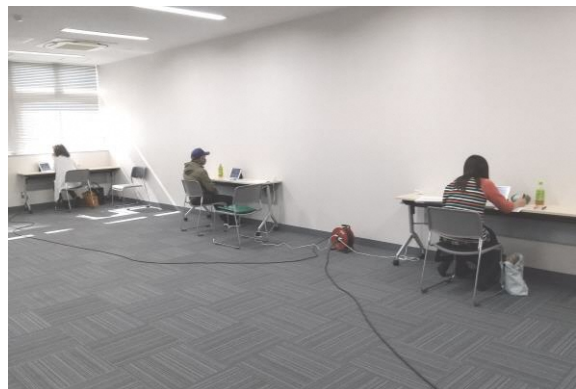
（オンライン参加が難しい方のみ、城陽市役所にて参加）

会議形式：城陽市が「ゼロカーボンシティ」を実現するために必要なアクション（行動）についての事前アンケート結果をもとに、各回とも参加者を4班に分け、班ごとに意見交換を実施

会議内容：班ごとのアイデア出し、意見交換、意見の集約、発表

今年度は、京都府内の新型コロナウイルスの感染状況をふまえて、オンラインで開催しました。インターネット環境がない方については、城陽市役所にお越しいただき、機材を貸し出すことにより、参加いただきました。

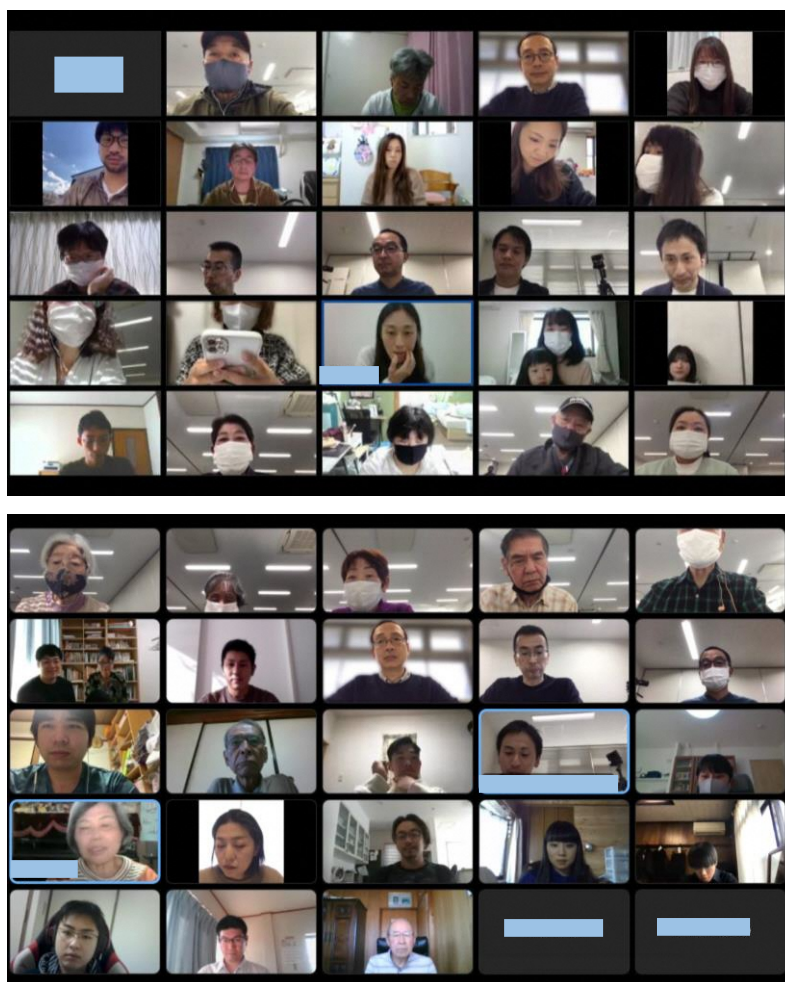
【現地参加者の様子】



1-4 会議の流れ（午前の部、午後の部とも共通）

前半は、テーマに関する基本的な情報などについて解説したあと、各班においてファシリテーターによる進行のもと、脱炭素化やゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること、将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージについて意見交換を実施しました。

後半は、各班で前半の内容をふまえて、城陽市に対して期待する施策や事業などについて話し合ったあと、発表に向けて内容をまとめました。



注 1：「脱炭素化」・・・二酸化炭素の排出量をゼロに抑えること。
「ゼロカーボン」・・・温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにすることであり、排出量と吸収量をプラスマイナスゼロにする＝「カーボンニュートラル」の状態を指す。

注 2：氏名が表示されている箇所を色塗りにしている（以下同様）。

1-5 タイムスケジュール

午前の部	午後の部	内容
9:30～ 10:00	13:30～ 14:00	参加者受付（オンライン会議、現地参加者）
10:00～ 10:05	14:00～ 14:05	会議スケジュール確認、進め方について説明
10:05～ 10:10	14:05～ 14:10	事前配布資料 「ゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと」について説明
10:10～ 10:20	14:10～ 14:20	班内での自己紹介
10:20～ 10:40	14:20～ 14:40	グループワーク 「ゼロカーボンに向けて自身が身近に取り組んでいること」について 意見交換
10:40～ 11:10	14:40～ 15:10	グループワーク 「ゼロカーボン化に向けた将来のライフスタイル」、 「城陽市に対して期待する施策や事業など」について意見交換
11:10～ 11:35	15:10～ 15:35	グループワーク 班発表に向けて、各班で出てきた意見や考えをまとめる
11:35～ 11:55	15:35～ 15:55	各班による発表
11:55～ 12:00	15:55～ 16:00	総括、アンケートの説明、閉会挨拶

第2章 議論に向けて

2-1 事前に配布したワークシートの活用

当日は、各班で、「脱炭素化、ゼロカーボンに向けて自身が身近に取り組んでいること」や「将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ」について意見交換を実施したあと、「城陽市に対して期待する施策や事業など」について話し合っていました。

当日、スムーズな議論や意見交換を行うことができるよう、参加者にワークシートを事前配布し、「脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること」、「将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ」、「城陽市に期待する施策等」について、それぞれ8つの項目に分け、ご自身の考えを整理する際に活用いただきました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ	城陽市に期待する施策等
住む			
働く			
移動する			
捨てる・再生する			
作る・育てる			
食べる・使う			
休む・遊ぶ			
学ぶ			

第3章 各班のグループワーク、発表内容

【午前の部】1 班

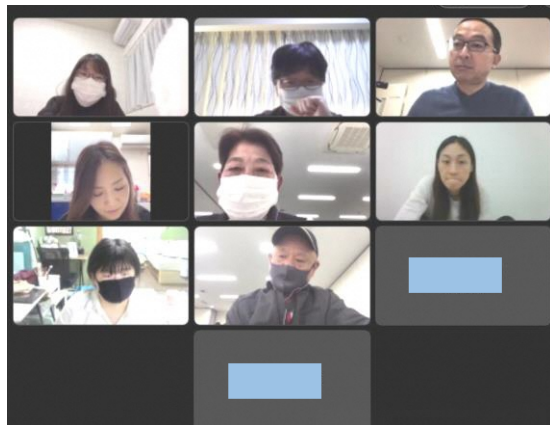
■脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること

「捨てる・再生する」についての関心度が高く、紙ごみや古紙のリサイクル、子ども服のリサイクル・リユースに関する意見がみられました。

■将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ

「移動する」についての関心度がとりわけ高く、電気自動車や水素自動車の普及、城陽さんさんバスの増便・路線拡大、乗り合いバスの運行に関する意見が多くみられました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ
住む	- できるだけ支障のない範囲で節水・節電を実施。 - 太陽光パネルを設置。	- 太陽光パネルの普及。 - 旧国道24号の拡張、JRや近鉄を高架にする。 - 新名神高速道路の工事が完成する一方で、道路脇の並木が続き、緑の多いまち。
働く	仕事柄、車を毎日使用しているので、どのように使用を減らしていけるか考えたい。	- 近隣で働く人の移動手段を小回りの利く軽自動車から変えていく。働く人たちに優しいまちづくり。 「電気自動車などの充電ステーション数、日本一」のようにブランド化し、環境系のベンチャー企業を誘致。
移動する	バスや電車などの公共交通機関の利用。	- 電気自動車や水素自動車の普及、充電ステーションの設置。 - 城陽さんさんバスの増便、路線拡大。 - アウトレット開業後の渋滞緩和策として、郊外のアクセスが良いところに大きい駐車場を作り、そこからバスを走らせる。 - 環境にやさしいバス、乗り合いバスの運行。
捨てる・再生する	- 紙ごみのリサイクル。新聞紙やチラシ、リサイクルマークの入っているものは古紙回収に出している。 - 子どもの服をリサイクル、リユースしている。 - ごみを分別している。	- ごみのポイ捨てをなくす。気がついたらみんなで片づける気持ちを持つ。 - リサイクルする場所や機会の増加。
食べる・使う	—	食品ロスをなくす。手前取りを実践し、子どもに教える。
学ぶ	「ゼロカーボンシティ」の言葉を今回、初めて聞いた。	「ゼロカーボンシティ」について幅広い世代が認識している。



■城陽市に期待する施策等および発表内容

「住む」では城陽市が施策を行うには予算が必要との観点から、環境政策に注力してPRを行い、人口増加につなげるとの意見がみられました。

そのほか、「移動する」では幅広い年代が利用できるような公共交通機関の環境整備、「学ぶ」では本市のゼロカーボンシティの取り組みを周知するなど情報発信に関する意見がみられました。

項目	城陽市に期待する施策等	目的・理由
住む	- 人口が増えるような取り組み。 - 太陽光パネルや電気自動車などの初期投資がかかるものに対して、助成制度を設ける。	「ゼロカーボンシティ」に取り組むにはお金がかかるので、人口が増えないと難しい。 - 環境施策に力を注いでNo.1を目指す。アピールポイントを明確にして周知徹底することで、市民に興味を持ってもらい、人口増加につなげる。
移動する	- 公共交通機関の整備。 - JRや近鉄の駅を舗装するなど、利用者が使いやすくなるように環境整備。	- 青谷や深谷エリアは駅までが遠いため、運行エリアや時間、路線の経路を見直す。ご年配や子どもたちが移動しやすくなり、より良いライフスタイル、CO2減少につながるのではないかと。 - 環境整備により、公共交通機関の利用者増が期待できる。
捨てる・再生する	古紙回収の回収場所や頻度を増やす、回収できるものの情報を周知徹底する。	現在だと、古紙を離れた場所へ持っていかないといけないので、自家用車がない人は取り組みにくい。
学ぶ	「ゼロカーボンシティ」に城陽市が取り組んでいること、何がその取り組みになるのかを周知徹底する。 「ゼロカーボンシティ」に関する声を聞く機会、より良く知ることができる機会を増やす。	子どもたちにも城陽市の取り組みを教えることで、子どもたちから取り組み、大人も自然に取り組めるようになるのではないかと。



【午前の部】2 班

■脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること

「住む」についての関心度が高く、太陽光発電の設置や節水・節電に関する意見がみられました。そのほか、徒歩や自転車での移動を心がける、包装紙やメモ帳のリユースなどに関する意見がみられました。

■将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ

食品ロスの削減や電気自動車産業へのシフトに伴う既存産業への救済策や補償に関する意見がみられたほか、電気自動車の普及や公共交通機関の利用促進、使用済み太陽光パネルの廃棄方法の確立などに関する意見が見られました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ
住む	- 太陽光発電の設置。 - 節水（お風呂の残り湯で洗濯、雨水を貯めて家庭菜園や庭の水やりに使用）。 - 節電（家の電球をLED化、日中に料理するなど）。	家の太陽光発電の電力を車にも使用する。
働く	—	電気自動車に生産をシフトすることで、既存産業の下請会社に影響が出た場合の救済策や補償を検討する。
移動する	- 徒歩や自転車での移動を心がけている。 - 電気自動車に乗り換えたいと思っているが、充電ステーションの場所が分からないので、購入に踏み切れない。	- 電気自動車を充電できる場所が増加し、電気自動車が普及する。 - 電車などの公共交通機関をなるべく利用する。
捨てる・再生する	- 仕事（レクリエーション）で飾り付けする際に、自宅にある包装紙などを活用している。 - 子どもが持ち帰るプリントをメモ帳として活用している。	- 再利用できるストローなどの開発。 - 使用済みの太陽光パネルの廃棄方法の確立。
食べる・使う	食事の好き嫌いはせず、食品ロスを減らしている。	- 牛のゲップにメタンが多く含まれていることから、食事における牛肉を代替品（培養肉など）に切り替える。 - 城陽市全体で食品ロスを削減した分だけ、食品メーカーの売上も減るため、セーフティネットを検討する。



■城陽市に期待する施策等および発表内容

「住む」ではゼロカーボンに資する取り組みを拡大するため、ポイント還元や電気・水素自動車の購入補助金に関する意見がみられました。

そのほか、「移動する」では充電ステーションの設置や歩きたくなる道の整備、「作る・育てる」では地元特産品をふるさと納税の返礼品として活用し、税収を増やすことに関する意見がみられました。

項目	城陽市に期待する施策等	目的・理由
住む	・ゼロカーボンに資する取り組み（バスの利用、賞味期限の近いものを購入、リサイクルなど）を頑張る人に対してポイント還元する。還元したポイントを市内で消費できる仕組みにする。 ・電気自動車や水素自動車の購入費用を補助。	・メリットがないと取り組みは広がらないため。 ・ポイント消費できる場所を市内にすることで、地域経済活性化につなげる。 ・電気自動車や水素自動車を購入するには初期投資が大きいため、負担を軽減するため。
働く	・企業誘致に力を入れる。城陽市をもっとPRする。	・様々な施策を行うにはお金がかかるため、税収を上げる。
移動する	・電気自動車や水素自動車の充電ステーションの設置。 ・城陽さんさんバスの増便、歩きたくなる道（安全に歩ける、休憩スペースを作る、綺麗な絵が描いてあるなど）の整備。	・充電できる場所がないと、購入に踏み切れないため。 ・徒歩や公共交通機関の利用を促すため。
作る・育てる	・イチジク、寺田イモ、梅をふるさと納税の返礼品として盛り上げていく（日持ちしないのであれば加工品にする）。	・ふるさと納税により税収を増やす。
食べる・使う	・地産地消の取組拡大。 ・食品ロスをなくす、食品メーカーへの補償の検討。	・運搬コストを減らすことでCO2排出量の削減につなげる。 ・食品ロスをなくすことによる売上減少、手前取りしないことによる廃棄コストが発生するため、食品メーカーに対する補償を検討する。



【午前の部】3 班

■脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること

「住む」についての関心度が高く、節電や節水、エコバッグやマイボトルの持参などの意見がみられました。そのほか、食品ロスををなくすための取り組みやセミナー等への参加や勉強会を開催しているなどの意見もみられました。

■将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ

「住む」に関する意見が多く、太陽光パネル設置の補助金や地下水資源の維持、山砂利採取跡地の緑地化についての意見がみられました。そのほか、「学ぶ」では SDGs について学ぶ機会づくりや本市の取り組みの周知など情報発信に関する意見がみられました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ
住む	・節水・節電、ウォームピズ（服を着こんで過ごす）。 ・宅配便をなるべく1回で受け取るように意識している。 ・エコバッグ、マイボトルの持参。 ・太陽光パネルを設置し、給湯器に活用している。 ・グリーンカーテンの実施。	・太陽光パネル設置にかかる費用を補助する。 ・太陽光パネルを山林ではなく、各家庭の屋根に設置する。 ・地下水が飲めるのは城陽市の利点であるので継続する。 ・山砂利採取跡地の緑地化。
働く	・ガソリンスタンドや工場などからのCO2排出について考えた取り組みを行っていいと思うが、具体的なアイデアはないので、本会議で話し合いたい。	・テレワークやオンライン会議が増えることで、移動で車を使用することが減少する。 ・市内で働くことの魅力をもっとPRする。
移動する	・通勤時に電車やバスを利用している。 ・遊びに行く際もなるべく車を使わないようにしている。	・城陽さんさんバスの増便、シャトルバスの運行など公共交通機関が充実する。
捨てる・再生する	—	・ごみの分別と目標の設定。 ・リユースできるものについてのPR強化。
作る・育てる	—	・昔は駅前にイチジク畑や田んぼがあったが、最近は宅地化している。家族経営で後継者がいない。
食べる・使う	・食品ロスをなくす（野菜を無駄なく使う、食事は食べきれる量にするなど）。 ・地産地消。 ・買い物時の手前取り。	・スーパーで賞味期限が近いものを安くしたり、配布する。
学ぶ	・交流会やセミナー、夜間講座などを利用して学ぶ。 ・学校関係者と出かけることがあれば、先生や生徒たちを相手に、SDGsに関する勉強会を行っている。	・古墳を活用し、幅広い世代の人がコミュニケーションを取る場所づくり。 ・SDGsについて小学生から学ぶ機会を作る。 ・市の取り組みを周知する。



■城陽市に期待する施策等および発表内容

補助金制度や自然環境の保全・緑地化など、「住む」に関する意見がとりわけ多くみられました。そのほか、「食べる・使う」では食品ロスの削減やフードドライブ、「学ぶ」では世代間交流できるコミュニケーションの場づくりなどに関する意見がみられました。

項目	城陽市に期待する施策等	目的・理由
住む	- 太陽光パネルの設置拡大。 - 断熱材の推奨・補助制度。 - 山砂利採取跡地の再緑地化。 - エコバック・マイボトルの推進。 - 地下水の水質維持。今後も継続して飲めるようにする。 - 新名神高速道路が開通後のCO2の影響が気になるので、市の対策などを具体的に示す。	- CO2の削減には、山林が大きく効果を発揮する。 - 昭和に建てられた家が多いので、断熱材により冷暖房を効率化する。 - 地下水はカルキの匂いがしないので住民からも好評であるため。
移動する	公共交通機関の充実（城陽さんさんバスの増便、路線拡大）。	子どもをバスで連れていける幼稚園とそうでない幼稚園があるなど、不便なエリアが存在している。生活しやすいまちづくりにつなげていく。
捨てる・再生する	- リサイクルの回収場所を増やす。 - フリーマーケットの開催。	- 近場でリサイクル品を持っていきやすい場所があれば、持ち込む人も増えると考えられる。 - フリーマーケットにより、捨てる服の量も減ると考えられる。
食べる・使う	- 地産地消。 - 賞味期限の近いものを安く売る。 - フードドライブ。	食品ロスの削減。
学ぶ	- 社会的インフラ（古墳）を使った歴史や情操教育の重視。 - 世代間交流ができるコミュニケーションの場づくり。 - 母子・父子家庭、子どもを教育していくための補助金。	- 城陽市はベッドタウンであり、地域コミュニティが希薄になりがちなので、人間の暮らしを重視した祭や河川を共同で守る地域ぐるみの事業をやっていくことをSDGsのゴールにする。 - 様々な人の賛同により、少子化解消につなげていく。



【午前の部】4 班

■脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること

「住む」についての関心度が高く、エコバッグやマイ箸の持参、節電に関する意見がみられました。また、「捨てる・再生する」についても比較的関心度が高く、ごみの分別やリサイクル・リユースに関する意見がみられました。

■将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ

アウトレットの開業に伴う排気ガスの増加や自然の減少についての意見がみられた一方、「学ぶ」では本市と民間企業が連携し、企業の環境活動を教育現場にも生かすなどの意見がみられました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ
住む	・エコバッグ、マイ箸の持参。 ・衣類で発汗・発熱の機能性が高いものを使用している。 ・衣類はなるべく気に入ったものしか買わないようにしている。 ・照明をLEDに切り替えている。 ・カーテンを長めにして冷暖房の効率を上げている。 ・冷暖房の温度設定を高め（低め）にし、薄着・厚着で調整している。	・子どもたちが遊ぶ場所がなく、室内で遊ぶ子どもが増加。木津川運動公園までの移動が自転車では大変なため、車で移動する人が多い。 ・アウトレットの開業に伴う車の流入増加により、排気ガスが増加。
移動する	・車移動の際に冷暖房の使用を抑える。 ・車移動を抑えて、自転車で移動している。	・運転免許証の返納者が増加。循環バスの運行。
捨てる・再生する	・ごみの丁寧な分別。 ・使わなくなったものをフリマアプリやリサイクルショップで売却している。 ・子ども服はいただいたものを使用したり、使わなくなったものを譲っている。	—
作る・育てる	・家にはできるだけ植物を置いている。	・アウトレットの開発により自然が少なくなる。
食べる・使う	・お肉などの食材を購入する際にトレー無しものを選ぶ。 ・健康を維持するため、塩分や糖分を抑えたり、コーヒーを飲んでいる。	—
学ぶ	—	・小学校入学前からゼロカーボンについて学ぶ。 ・市と民間企業が連携して、企業の環境に対する活動を教育にも生かす。



■城陽市に期待する施策等および発表内容

「住む」に関する意見がとりわけ多く、省エネ商品の効果の見える化、空き家を活用したコミュニティ拠点づくり、太陽光パネルや省エネ機器導入の補助制度の情報発信に関する意見がみられました。

また、「移動する」ではバスの増便やシャトルバス、乗り合いバスの運行、「作る・育てる」や「食べる・使う」では空き家の緑地化や農業用地への転用に関する意見がみられました。

項目	城陽市に期待する施策等	目的・理由
住む	- 省エネ商品や家電を選ぶことで、どれ位のメリットにつながっているのか分かりづらいので見える化する。 - 空き家をリノベーションして、カフェ、ご年配や子どものコミュニティ拠点として活用する。 - 大型商業施設のおむつ台や授乳室などの設備面を充実する。 - 新築住宅を建築する際に太陽光パネルの設置を法制化するとともに、補助金や設置業者の情報を広報で発信する。 - 省エネ機器の補助政策について広報で発信する。	- 省エネ商品の購入を促進するため。 - CO2を吸収する緑を増やす。 - 税収面で移住者を増やすため、コミュニティ拠点を整備する。 - 大型商業施設に多くの人が訪れることで、エアコンを節電する。 - 昭和に建てられた住宅が多いので、新築住宅への設置を義務付ける。 - 市から省エネ機器の情報を発信するため。
移動する	- バス停や本数を増やす、乗り合いタクシーの運行。 - アウトレットまでの中長距離のシャトルバスの運行。 - 自転車を購入する際に補助金を出す。乗った距離に応じてポイントがもらえる仕組みにする。	- ベビーカーの利用者の移動範囲拡大につなげるため。 - 自転車で移動できない場所や、子どもたちがボール遊びをする場所がなく、遊べる場所までの移動手段が必要なため。 - 自転車だけでは荷物が多いと大変なので、自家用車で移動する人が増えてしまう。 - アウトレットが完成した後、車の流入が増えて環境問題になることが予想されるため。 - 自転車の利用者を増やすため、メリットをつける。
作る・育てる	- アウトレットが開発された後も、賑わいと緑のバランスを保つ。 - 空き家を解体・更地にして植林し、緑を増やす。	自然が少なくなるのを防ぐため。
食べる・使う	空き家を農業用地にする。	地産地消を促進するため。



【午後の部】1 班

■脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること

「住む」についての関心度が比較的高く、節電に関する意見がみられました。そのほか、CO₂ の排出を抑えた移動や生ごみの堆肥化などリサイクルに関する意見がみられました。

■将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ

節電・節水に取り組む一方でごみを燃やした熱を活用して発電するとの意見もみられました。そのほか、地産地消の促進による食品ロスの削減や本市のゼロカーボンシティの取り組みを周知するなど情報発信に関する意見がみられました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ
住む	・照明をLEDに切り替えている。 ・トイレのシャワー設定の温度を夏・冬で変更している。 ・トイレの便座の温度を変更している。	・太陽光発電は廃棄費用がかかるので、効率的に取り組める節電・節水を行う。 ・遊休地の有効活用
移動する	・車をハイブリッドカーにしている。 ・車をなるべく使用せず、徒歩や自転車で移動している。	・車の使用を少なくする。
捨てる・再生する	・ごみの削減。生ごみをコンポストで堆肥化している。 ・リサイクルを心がけている。	・ごみを燃やした熱を活用して発電する。
作る・育てる	・CO₂を吸収できるよう、庭に草花を植えている。	・CO₂の吸収を増やすため、緑を増やしていく。
食べる・使う	・地元産の食材を購入している。	・生産者から直接スーパーに卸して、消費者が買えるように地産地消を促し、食品ロスをなくす。
学ぶ	—	・市民にゼロカーボンシティの取り組みを周知し、意識づける。

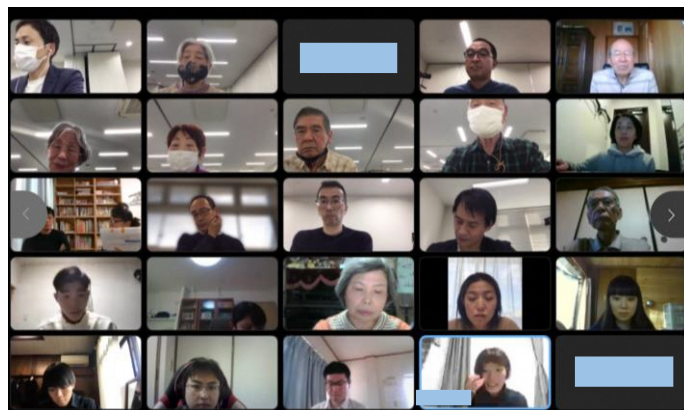


■城陽市に期待する施策等および発表内容

「住む」と「学ぶ」についての意見が多く、「住む」ではふるさと納税を活用してカーボンニュートラルの取り組みのPRや資金源とする、CO2削減効果や太陽光発電量の見える化に関する意見がみられました。

「学ぶ」では広報活動の活発化、イベントを通じた啓発活動による本市の取り組みや魅力のPRに関する意見がみられました。

項目	城陽市に期待する施策等	目的・理由
住む	・ふるさと納税の活用。 ・自身の取り組みがどの位CO2排出量の削減につながっているのかを数値として見える化する。 ・太陽光発電の発電量を見える化する。 ・ロードマップとビジョンを策定する。	・自然環境保全団体に納税の一部を配分することで、カーボンニュートラルを推進していることをPRする。 ・ふるさと納税の返礼品を若い人にとって魅力のあるものにする事でPRし、市の取り組みを知ってもらうため。 ・CO2排出量の削減効果を見える化することで、モチベーションの向上につなげる。 ・市として何年後にどうありたいか、目標を定める。 ・カーボンニュートラルに向けた直接的な取り組みに加えて、現在における市民の課題、今後の課題（バスが少ない、住民が増えない）などを解決する中で「カーボンニュートラルのまち」であることを活用する。
学ぶ	・市内外への広報活動を活発に行う。ホームページや広報紙を活用して、市民への周知や意識づけを行う。 ・子どもたちも巻き込めるように、コミュニティセンターなどでイベントを行い啓発活動を行う。実際の行動やビジョンを周知していくことで、市民や市外の人にとっても魅力的な市となり、移住希望者へアピールする。	・市としてどのように取り組みを進めていくのか、協力を求めていくのか分からないので、若い人たちに知ってもらう。 ・子どもにも分かりやすく説明する機会や場所を設ける。



【午後の部】2 班

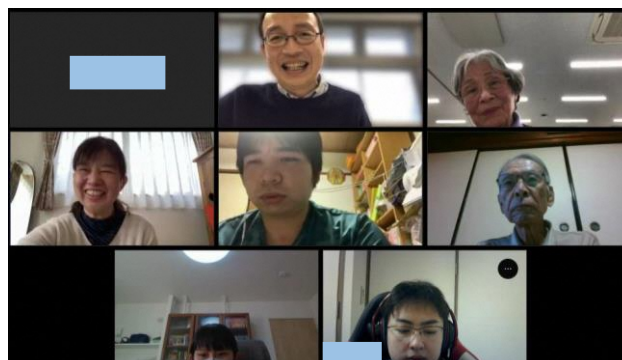
■脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること

「住む」についての関心度が高く、無駄なものを買わず自炊する、エコバッグの持参などの意見がみられました。そのほか、食品ロスを削減するため購入した食品を食べきる、地元産の食材を購入するなどの意見もみられました。

■将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ

「移動する」についての関心度が高く、レンタサイクルや電気・水素自動車の普及に関する意見がみられました。そのほか、食材購入時に必要な量だけを量り売りする（マイタッパーの持参）などの意見もみられました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ
住む	・宅配サービスをなるべく1回で受け取る。 ・無駄なものを買わないようにしている。 ・総菜を買うとごみが出るので、なるべく自炊している。 ・エコバッグの持参。	—
働く	—	・クールビズ、ウォームビズがまだまだ世の中に浸透していないので、市が施策を周知し、自身の体感温度に合った格好で仕事ができる時代になる。
移動する	・公共交通機関を利用している。	・レンタサイクルが普及し、自転車で街並みを見てまわる。 ・電気自動車や水素自動車が普及する。深夜帯の電気代が安い時間帯に充電できるような取り組み。 ・CO2の排出量が少ない公共交通機関で移動する。
捨てる・再生する	・家庭で出る生ごみをコンポストで堆肥化し、有機肥料として畑にまいている。	—
作る・育てる	・プランターで野菜や花を育てている。	—
食べる・使う	・購入した食品を食べきり、食品ロスを削減している。 ・できるだけ地元産の食材を購入している。	・食材のトレー無しで購入する人が増える。必要な量だけ量り売りする（マイタッパーの持参）。 ・地産地消が進む。
学ぶ	・環境問題などについてYouTubeの動画を見て学習している。	—

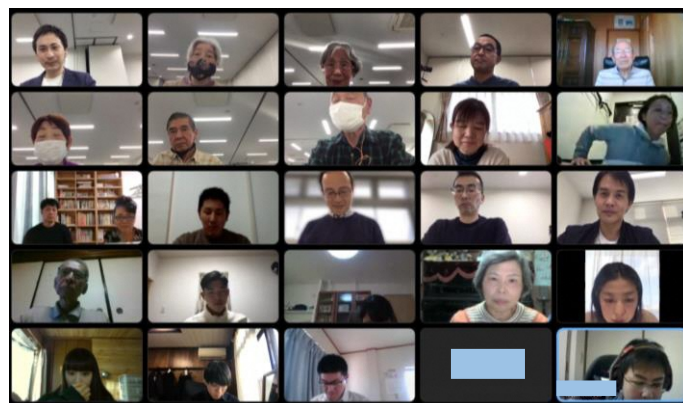


■城陽市に期待する施策等および発表内容

市民が車を利用せずに歩きたくなる、アクセスを高めたまちづくりに関する意見が多く、公園などの憩いの場や総合病院の設置、バスの増便や道路整備、街路樹や花壇の設置に関する意見がみられました。

そのほか、地元農産物を購入できる場所を増やすなど地産地消、ゼロカーボンシティ宣言の市民向けPRを強化するなどの意見がみられました。

項目	城陽市に期待する施策等	目的・理由
住む	- 市に憩いの場（広々とした公園みたいな施設）がない。大人が休憩して良い空気を吸えるような広い場所がほしい。身近に行けるところに、例えば文化パーク城陽のまわりにそのような場所があれば嬉しい。 - 総合病院を近鉄寺田駅前につくる。 - 太陽光パネルの設置費用の補助金を拡充する。	- 市民が車を利用せずに歩きたくなる、アクセスを高めたまちづくりを行うため。 - 太陽光パネルの設置を促すため。
移動する	- バスの本数を増やす。 - 歩きやすい、自転車でも走りやすいよう道路を整備する。	- 新型コロナウイルスのワクチン接種会場に行くのにも、車でないと行けず、不便なため。 - 自動車が増えており、歩行者が安全に歩くことができ、自転車でも走りやすい道路整備が必要なため。
作る・育てる	- 街路樹や花壇をつくる。 - 農業従事者に対する支援。	- CO2を吸収できる緑を増やすため。新名神高速道路の開通などの開発により、自然が少なくなるため。 - 農業が儲かるものでないと生産する人が増えないため。
食べる・使う	- 道の駅など、地元農産物等を購入できる場所を増やす。 - 地元産の野菜などで不揃いのものをスーパーなどでセット売りする。	- 地産地消を促すため。 - 地元産の野菜などの美味しさをPRする。
学ぶ	- 城陽市のお茶も良いものがあるのでもっとPRする。 - ゼロカーボンシティ宣言について、市民にもっとアピールして発信する。	- 城陽市のお茶をブランド化するため。 - 市民を巻き込むことで色んなアイデアが生まれ、市民からの協力を得られやすくなるため。



【午後の部】3 班

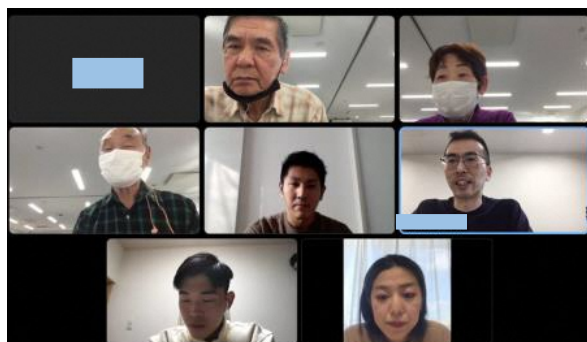
■脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること

「捨てる・再生する」についての関心度が高く、放置竹林の手入れのほか、服のリユースやリサイクルに関する意見がみられました。そのほか、エコバッグの持参、移動時に自転車や電車での移動を心がける、食品を無駄に買わないなどの意見がみられました。

■将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ

「捨てる・再生する」についての関心度が高く、ごみの堆肥化やエネルギーとして活用するなどの意見がみられました。また、ごみを減らす観点で無駄な食事を作らない、フードバンクを設置するとの意見がみられたほか、ポイ捨てをしない教育の徹底、学生の頃からゼロカーボンの取り組みに触れさせるなど、意識づけについての意見がみられました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ
住む	・節電。 ・エコバッグの持参、コンビニの箸を受け取らない。	・太陽光発電を設置している家が増える。再生可能エネルギーへのシフト。
働く	—	・オンライン化が進み、移動を伴わずに働ける形が拡大。
移動する	・移動時になるべく自転車を使用している。 ・通勤時に電車で移動するよう心がけている。	・自転車の活用を推進。 ・電気自動車の普及。充電ステーションの設置。
捨てる・再生する	・学校ではSDGsの活動として放置竹林を手入れしたり、竹をランタンに加工して再利用している。 ・学校内でサステナブルファッションに取り組んでおり、使わなくなった、着れなくなった服などを違う人に再利用してもらうために、集める活動をしている。 ・値段が高くても長く使えるものを選ぶようにしている。衣類はリユースやバザーで出すなど、捨てないようにしている。 ・リサイクルショップで使わなくなった服を売却し、新しい服を購入している。 ・なるべく、ごみの分別を行っている。	・コンポストを使った堆肥化。家庭内で再生できるものと区別してごみに出す。 ・市が生ごみだけを貯める施設をつくり、メタンガスを回収してエネルギーとして活用する。 ・3Rについて意識づけるためアウトレットでバザーを開催。
作る・育てる	—	・シェア農園で野菜などをつくる（子どもの食育にもつながる）。
食べる・使う	・食品ロスをなくすため、無駄なものを買わない。	・無駄な食事を作らず、できるだけごみを減らす。 ・フードバンクを設置し、製造過程で商品にできなくなったものを取り扱い、必要な人に届ける。
学ぶ	・専門家の意見や情報を色々集めて総合的に判断している。	・ポイ捨てをしないよう家庭や学校で教育を徹底。 ・学生の頃から、ゼロカーボンの取り組みに触れたり、自分で主体的に考える機会を持つことで将来、個人レベルでゼロカーボンについての意識が浸透する。



■城陽市に期待する施策等および発表内容

「住む」や「移動する」に関する意見が比較的多く、自転車については電動自転車の購入費用の補助や専用道路の整備に関する意見がみられたほか、バスの停留所増加や乗り合いタクシーの運行についての意見もみられました。

項目	城陽市に期待する施策等	目的・理由
住む	- 太陽光パネル設置にかかる補助金を出す。 - 空き家バンクの創設。 - 電動自転車の購入費用を補助。	- 初期投資にお金がかかるため。 - 空き家が放置されているエリアもあるので、城陽市外の方にも住んでもらえるような補助金を出すことで、古い家も活用され、新たに家を建設したり廃材が出るのを抑える。
働く	オフィスをつくるためのコスト、資材が要らなくなることについての補助金を出す。	リモートワークを促進し、移動を少なくするため。
移動する	- 自転車の使用促進策として、安全に移動できる自転車専用道路を整備する。 - バスの停留所を増やす。 - 乗り合いタクシーの運行。	- 自転車が車と同じ道路を走ることになっており、道幅も狭く危ないため。 - 住んでいるエリアに高齢者が多く、買い物や病院への移動が課題になっている。市単位ではバスの運営コストがかかるため乗り合いタクシーでエリアをカバーする。
捨てる・再生する	生ごみをコンポストで堆肥化するにあたって補助金を出す。	生ごみの削減、再利用を促進するため。
作る・育てる	森林保全や植林を進める。	CO2の吸着を進めて、ゼロカーボンにつなげるため。海外の事例や取り組みからも学びながら、活動していく。
食べる・使う	フードバンクの創設。	生活が困窮している方向けに、現金以外の支給を実施し、食品ロスや市の税金支出を減らす。
休む・遊ぶ	外の公園で遊ぶことや楽しみ方を市としてもっとPRする。	外での遊び方や場所を知ること、CO2の排出削減につなげるため。
学ぶ	学校や若者が集まるイベントなどゼロカーボンに触れる機会を行政が提案する。	若年層に子どもの頃から遊びを交えて、CO2の排出削減やSDGsに触れる機会をつくることで、将来、当たり前のよう環境問題に取り組む社会にしていこうため。



【午後の部】4 班

■脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること

「住む」についての関心度が高く、エアコンの温度設定や断熱材による節電のほか、エコバッグを持参するなどの意見がみられました。そのほか、車を使用しない移動、 unnecessary なものを購入しない、食品ロスの削減に関する意見などがみられました。

■将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ

市民にとってゼロカーボンシティに向けた取り組みを行うことにメリットがあれば、より多くの人に参加するようになる、食品ロスについてスーパーなどの協力者が増えるようになれば取り組みが拡大するとの意見がみられました。

項目	脱炭素化、ゼロカーボンに向けて身近に取り組んでいること	将来のライフスタイル（ゼロカーボン）のイメージ
住む	・節電（使わない部屋の電気を消す、夏のエアコンの設定温度を28℃に設定）。 ・家を建てる際に保温・保湿効果のある断熱材を入れており、エアコンを使わず、床暖房だけで過ごしている。 ・夏場にグリーンカーテンをつくっている。 ・エコバッグの持参。	・ゼロカーボンシティは一部の人だけが取り組んでも仕方ない。メリットがあれば多くの人に取り組むようになる。
移動する	・車をなるべく使用せず、電車や自転車移動している。 ・車をハイブリッドカーにしている。	—
捨てる・再生する	・必要な物以外はなるべく買わないようにしている。	—
食べる・使う	・食品ロスを削減するため賞味期限が近くなり、安くなっているものを積極的に購入している。	・スーパーなど協力できる場所が増えれば、食品ロス削減の取り組みが広がる。スーパーも廃棄コストが下がり、消費者も安く購入できる。



■城陽市に期待する施策等および発表内容

「住む」や「移動する」、「学ぶ」についての意見が多く、「住む」では取り組みや環境の見える化、電気自動車や太陽光パネルの購入補助に関する意見などがみられました。

「移動する」ではコミュニティバスや循環バスについての意見のほか、自転車専用道路の整備やレンタサイクルシステムなど自転車に関する意見がみられました。「学ぶ」ではSNSや専用サイトによる情報発信力の強化のほか、市民同士の意見交流の機会を増やすなどの意見がみられました。

項目	城陽市に期待する施策等	目的・理由
住む	・城陽市や市内の企業が、CO2の排出量を抑える旗振り役となって具体的な施策を市民に対して提示する。 ・取組や環境の見える化、数値化による共有。 ・電気自動車の購入費の補助。 ・太陽光パネルを新築住宅に設置する際に設置資金を補助する。	・市民一人一人が取り組みを変えていく必要があるため。行政の施策の押し付けではなく、官民連携で取り組んでいくため。 ・電気自動車の初期費用がかかるので、購入時の補助と充電ステーションの整備を進める。
移動する	・コミュニティバスの運行。電気自動車を使用し、その電力を太陽光パネルで発電する。公民館やそれぞれの地域に市が太陽光パネルを設置して循環させる。 ・城陽さんさんバスの増便、路線拡大（久津川方面）。 ・アウトレットの開業に伴う渋滞対策として、循環バスやコミュニティバスの運行、電車の利用を促す。 ・自転車専用道路を整備する。 ・銀行やスーパーでレンタサイクルの活用システムをつくる。	・城陽さんさんバスやコミュニティバスの運行により、高齢者の買い物難民を助けるため。 ・城陽さんさんバスは現状、高齢者の利用が多いが、若い人たちの利用を促し、自家用車に次ぐ移動手段としていくため。 ・循環バスの運行により、市外からも人が訪れやすくなるため。 ・自転車を自家用車以外の移動手段として、普及させていくため。
捨てる・再生する	・城陽市が再利用の拠点（施設）をつくり、廃棄ごみを減らす。 ・おもちゃなどを廃棄せず、フリーマーケットを開催し再利用する。 ・古着を循環させるため、物々交換ができる仕組みをつくる。	・新しい製品を買って使わなくなったもので、使えるものであれば再利用するため。ごみの廃棄を減らすため。
作る・育てる	・樹木を増やすなどの地域に合った取り組みをする。	・CO2の吸収を促すため。
食べる・使う	・フードバンクの仕組みの活用とその拠点を増やす。スーパーなどの売れ残りなど品数を増やして、受け取れる人を増やす。形が崩れて売れ残った農作物も分け与えるなど、利用しやすくする。	・スーパーなどでは売れ残りの廃棄コストを削減でき、消費者は商品を安く購入できるため。
学ぶ	・情報発信にも注力し、専用サイトをつくる。 ・広報紙だけでなく、SNSやホームページを活用し、幅広い世代に発信する。 ・意見交流の機会や場を増やす。 ・太陽光パネルの設置にかかる知識の啓発。	・環境保全活動の面をPRしていくことが、知名度の向上や市民の意識変容につながる。 ・市民同士が互いの考えを知る機会や問題に対して考える機会にする。無作為抽出だけでなく、世代を分けたり、事業者の参加を促して、議論や理解を深めていく。



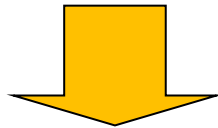
第4章 まとめ

4-1 意見結果

本会議では、午前と午後あわせて計 8 班において「城陽市のゼロカーボンシティの実現」に向けた活発な議論がなされました。出てきた意見の多くから、ゼロカーボンシティの実現には、地域課題の解決や地域活性化が求められていると考えられます。

土台となるもの（城陽市の地域資源・可能性）

- ・ 未利用資源（未利用農地、空き家、空き地・未利用地など）
- ・ 美味しい食べ物や水（米、イチジク、寺田イモ、梅、茶、地下水など）
- ・ エネルギーに依存しない生活（例：冷暖房を使わないなど）
- ・ 観光資源（古墳などの歴史文化資源、城陽五里五里の丘（京都府立木津川運動公園）、アウトレットなど）
- ・ 期待される交通体系（JR奈良線の複線化、新名神高速道路の全線開通）



解決したい地域課題

- ・ 少子高齢化・人口減少対策
（Ｕターン、移住・定住、交流人口、空き家対策など）
- ・ 自然・農地・山林・未利用地の保全、活用
（地下水保全、森林保全、植林など）
- ・ エネルギー収支赤字の解消
（エネルギーの地産地消、自然・再生可能エネルギーの推進、未利用資源の有効活用など）
- ・ 生活利便性・安全性・安心性の向上
（商業、医療・地域福祉、道路整備、公共交通の拡充など）
- ・ 産業・雇用の創出・支援
（企業誘致、アウトレットの開業、6次産業化、リモートワーク推進など）
- ・ 教育・情報発信
（学校でのゼロカーボンについての教育、市民の意識や行動変容、ホームページやSNSでの情報発信など）

4-2 総括

(1) 住む

本市の人口は減少が続いており、住宅も昭和に建てられたものが約半数を占め、一人暮らしの高齢者や空き家の増加などの様々な問題が考えられます。

「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」では、太陽光パネルや電気自動車などの設置・購入費の補助、省エネ・脱炭素効果の見える化・ロードマップ策定やポイント還元など、ゼロカーボンに取り組む人への金銭的支援や目標設定についての施策が期待されています。また、空き家バンク創設や空き家の活用、駅前への総合病院誘致など住民が積極的に暮らせる魅力的なまちづくりも期待されています。

(2) 働く

本市の就労に関わる特徴として、就労人口の市外流出、農業従事者の後継者減少、就労の場の少なさによる若者の定住人口の減少などの問題が考えられます。

「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」では、新名神高速道路の全線開通による効果をPRし、積極的な企業誘致が期待されています。また、コロナ禍において浸透したりリモートワークの動きを拡大することで、移動にかかるCO2排出量の削減につながることから、施策の浸透に向けた企業に対する支援が期待されています。

(3) 移動する

本市の交通環境の特徴として、車社会による温室効果ガスの排出、歩行者や自転車、高齢者の移動の問題などが深刻化していると考えられます。

「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」では、電気自動車や水素自動車の普及に向けた充電ステーションの設置、城陽さんさんバスの増便や路線拡大、乗り合いバス（タクシー）やアウトレット開業に伴うシャトルバスの運行など、地域の規模に合った効率的・魅力的な移動の仕組みづくりが期待されています。また、歩行者や自転車が安全に移動できる道路整備、自転車利用を促進するためのポイント施策など、市民が徒歩や自転車で移動したくなるまちづくりが期待されています。

(4) 捨てる・再生する

本市においてもリサイクル、再資源化への関心が高まっています。

「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」では、リサイクル品の回収拠点の増加やフリーマーケットなどの機会づくりのほか、生ごみを堆肥化するコンポストの導入補助金についても期待されています。

(5) 作る・育てる

本市の土地や景観に関する特徴として、未利用農地や耕作放棄地、空き家・空き地の問題が増加しています。

「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」では、農業従事者への支援のほか、空き家を解体して農業用地に転用する、地元農産物をふるさと納税の返礼品としてPRし地産地消を促すことが期待されています。また、新名神高速道路やアウトレットの開発が進むなかでも森林保全や植林に取り組み、賑わいと自然環境のバランスの維持についても期待されています。

(6) 食べる・使う

本市は農産物や豊かな地域資源に恵まれており、食の自給自足の可能性を有しています。「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」では、食品ロスを削減するため、形が悪い農産物でもスーパーなどで販売するほか、手前取りの推奨やそれに伴う損失に対する食品メーカーへの補償、フードドライブの推進、フードバンクの創設が期待されています。また、地元農産物を購入できる場所の増加や空き家の農業用地への転換など、地産地消の促進や未利用地の有効活用による、持続可能な消費のあり方が期待されています。

(7) 休む・遊ぶ

本市は豊かな自然環境のもと、美味しい水、食、森林、景観など様々な財産を有しています。

「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」では、自家用車がないと「城陽五里五里の丘」までの移動が難しいことから、身近に子どもたちが遊べたり、市民の憩いの場となる公園の設置が期待されています。環境に負荷をかけずに休み、遊べる環境は脱炭素社会を支える重要なライフスタイルの一場面を担う空間として期待されています。

(8) 学ぶ

本市の豊かな環境は、自然や地域資源、地域社会などから学び、主体的・自律的な生き方の土台を築くための教育の可能性を有していると考えられます。

「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」では、本市のゼロカーボンシティに向けた取り組みについて SNS や専用サイトの開設などによる市民向け情報発信力の強化、イベントによる啓発活動が期待されています。

また、市民同士が意見交換会などでゼロカーボンについて考える機会や場を設けることで、市民の知識や理解を深めていくことも期待されています。

＜全体考察＞

本市において、温室効果ガスの９割以上を占めるCO₂の排出量は、令和元年度（2019年度）は乗り物からが約３分の１、家庭からが約４分の１を占めており、日常生活の中から多くのCO₂が排出されています。

今後、新名神高速道路の全線開通、JR奈良線「京都-城陽間」の全線複線化などにより、東部丘陵地をはじめとする産業の創出・集積に向けたまちづくり、さらなる利便性の向上が期待されますが、自動車の通行量や排気ガスの増加など、開発に伴う影響への対策も必要になっていくものと考えられます。

本会議の議論の中では「ゼロカーボンシティの実現に向けて市に期待する施策」として、省エネ・再エネ設備等の購入補助金、充電ステーションの設置、公共交通の充実、歩道や自転車専用道路の整備、リサイクルの機会づくり、地産地消や食品ロス削減、森林保全、市民がゼロカーボンについて理解を深めるための意見交換会の実施など、様々な意見がみられました。

意見の中には、太陽光発電システムと蓄電池システムを同時設置した人への補助や、省エネ効果・CO₂排出量の見える化、コンポスト容器購入への補助をはじめ、城陽環境パートナーシップ会議における市民協働の取り組みなど、本市がすでに実施している施策も多くありました。また、ゼロカーボンに積極的に取り組む市民へのポイント還元といった、今後の実施に向けて動いている施策もあり、それらの意見と市の方向性が一致していることは歓迎すべきである一方、各施策の認知度向上に向けた取り組みも必要であると考えられます。

地域と暮らしは、産業や交通・まちづくり、エネルギーインフラなどと相互に関連しています。そのため、地域における脱炭素社会への移行は、経済社会全体を俯瞰して進めていくことが望ましく、地域資源を最大限に活用して経済を循環させ、暮らしの質の向上や防災等の地域課題解決とWin-Winで進めていくことが求められます。

本市のゼロカーボンシティ実現に向けては、市民一人一人の行動変容や取り組みが重要であり、ハード面ではインフラ整備や公共交通の充実による安全・快適に暮らせる環境整備、ソフト面ではリサイクルや食品ロス削減、市民参加型イベントなどの機会や仕組みづくりなど、市民全員が参加できる形が求められます。

そして、これらの取り組みを通じた地域ブランディングによって本市のイメージ向上を図り、企業誘致や若い世代の本市への移住につなげることで、さらなる発展・地域活性化が期待されます。

本会議でいただいた意見に基づき、本市として取り組むべきものについては、すでに実施している施策との整合性を図りながら、施策への反映について検討することとします。

第5章 資料編

5-1 事前配布資料「ゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと」

城陽未来まちづくり会議(55人委員会) テーマ：ゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと

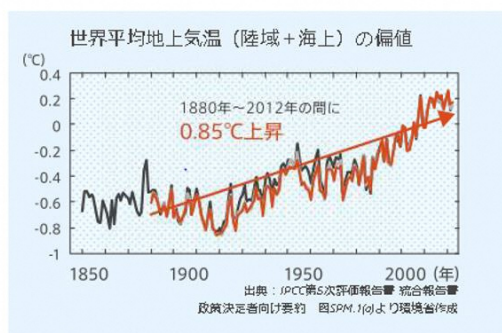
事前資料 ※会議当日までにご覧ください



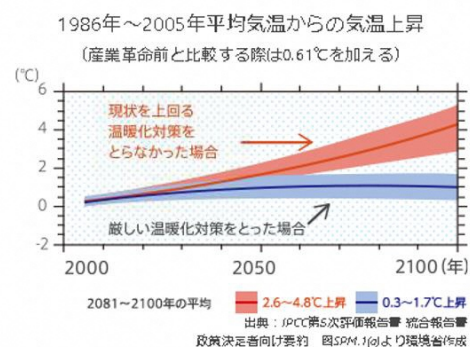
地球温暖化について

1. 地球温暖化とは

- 世界平均地上気温は、1880年から2012年の期間に**0.85℃上昇しています**。
- 有効な温暖化対策をとらなかった場合、2081年～2100年の世界の平均気温は、**最大で4.8℃上昇**すると予測されています。
- 地球温暖化による気候変動により、氷河の融解や海面水位の変化、洪水や干ばつ、陸上や海の生態系への影響、食料生産や健康など人間への影響が観測され始めています。



出所：環境省ホームページを基に作成。

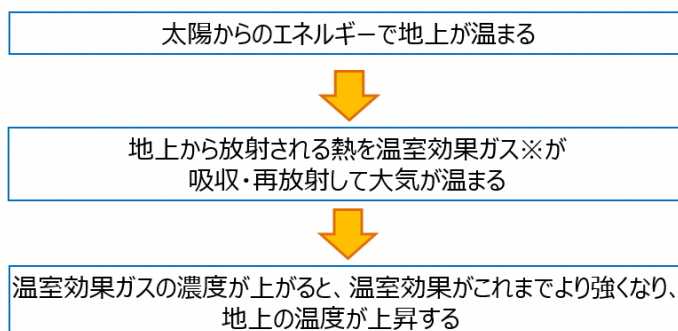


2

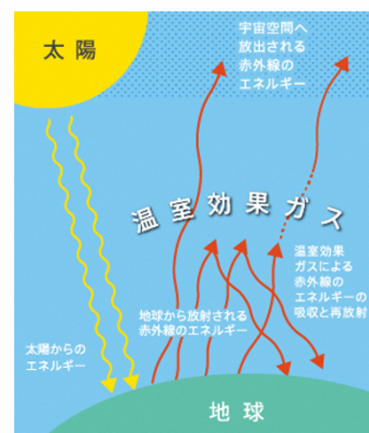
2. 地球温暖化の仕組み

- 地球温暖化には**温室効果ガスが大きく影響しています**。

地球温暖化のメカニズム



※主な温室効果ガスの種類として、二酸化炭素（CO₂）、メタン、一酸化二窒素、代替フロンなどがあります。



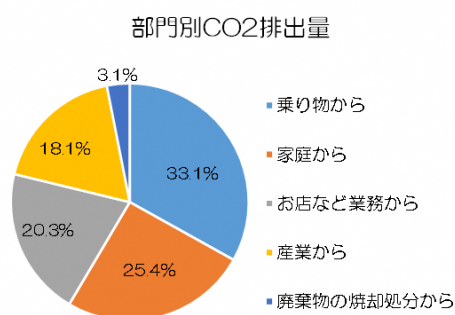
出所：環境省ホームページを基に作成。

3

3. 城陽市の部門別CO2排出量

○城陽市の部門別CO2排出量をみると、乗り物からが33.1%、家庭からが25%を占めています。

○**約5割が車や人の移動、家庭でのエネルギー消費など、身近な生活の中で排出されています。**



出所：広報「じょうよう」№1689を基に作成。

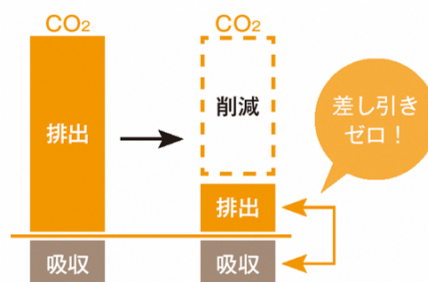
4

4. ゼロカーボンシティとは

○城陽市では、温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロとする「**ゼロカーボンシティ**」に挑戦することを宣言しています。

ゼロカーボンシティとは？

温室効果ガスの中で**約9割以上を占めるCO₂**の排出量と吸収量を差し引きし、実質ゼロにすることを「**カーボンニュートラル**」といいます。
このカーボンニュートラルを2050年までに目指すことを公表した地方自治体のことを「**ゼロカーボンシティ**」といいます。



出所：広報「じょうよう」№1689を基に作成。

5

5. 脱炭素社会の実現には

○脱炭素社会の実現には、**一人ひとりのライフスタイルの転換が重要です。**

ひとりひとりができること
**ゼロカーボン
アクション30**

脱炭素社会の実現には、一人ひとりのライフスタイルの転換が重要です。
「ゼロカーボンアクション30」にできるところから取り組んでみましょう！

*下の各カテゴリーをクリックすると具体的なアクション項目が確認できます。

 エネルギーを 節約・転換しよう！	 太陽光パネル付き・ 省エネ住宅に住もう！
 CO2の少ない 交通手段を選ぼう！	 食ロスをなくそう！
 サステナブルな ファッションを！	 3R（リデュース、 リユース、リサイクル）
 CO2の少ない製品・ サービス等を選ぼう！	 環境保全活動に 積極的に参加しよう！

出所：環境省ホームページを基に作成。

**城陽市のゼロカーボン
シティの実現に向けて
必要なことをみんなで
考えていきましょう！**

6

6. ゼロカーボンアクションの具体的な取組例

**城陽市のゼロカーボンシティの実現に向けてどのような取り組みが
有効か、みんなで話し合いましょう！**

 **エネルギーを節約・転換しよう！**

Action

- 1 再エネ電気への切り替え
- 2 クールビズ・ウォームビズ
- 3 節電
- 4 節水
- 5 省エネ家電の導入
- 6 宅配サービスをできるだけ一回で受け取ろう
- 7 消費エネルギーの見える化



出所：環境省ホームページを基に作成。

 **太陽光パネル付き・省エネ住宅に住もう！**

Action

- 8 太陽光パネルの設置
- 9 ZEH（ゼッチ）
- 10 省エネリフォーム 窓や壁等の断熱リフォーム
- 11 蓄電池（EV・車載の蓄電池）・蓄エネ給湯機の導入・設置
- 12 暮らしに木を取り入れる
- 13 分譲も賃貸も省エネ物件を選択
- 14 働き方の工夫

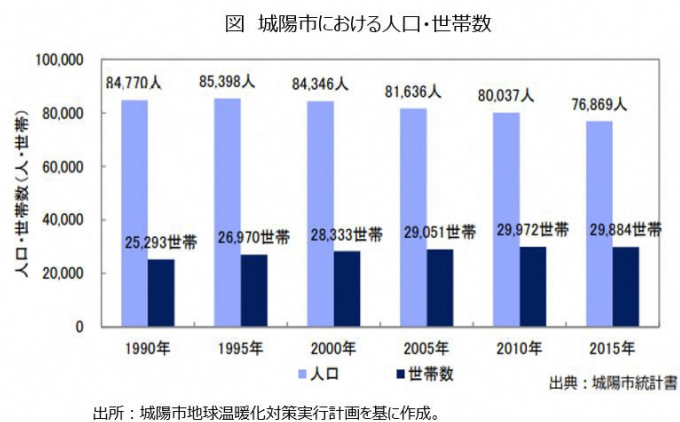


7

＜ご参考＞城陽市の概要・ 温室効果ガス排出量の推移

城陽市の概要①

○1995年頃をピークに**人口は減少傾向ですが、世帯数は増加傾向にあります。**

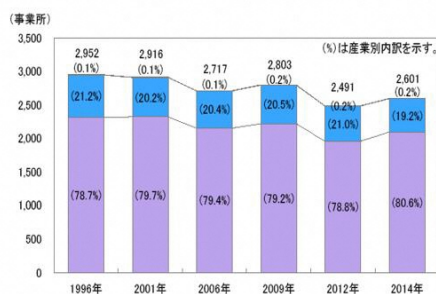


城陽市の概要②

○事業所数は**全体的に減少傾向**となっています。産業の内訳としては第3次産業の割合が上昇しています。

○自動車総数は近年では約4万台で**横ばい傾向**となっています。
車種別に見ると、**軽自動車の増加が大きく**、乗用車、貨物車は減少傾向となっています。

図 城陽市における事業所数の推移



出所：城陽市地球温暖化対策実行計画を基に作成。

図 城陽市における自動車保有台数の推移



10

城陽市の概要③

○城陽市の住宅の建築時期は、**昭和に建てられた住宅が約半数**を占めています。

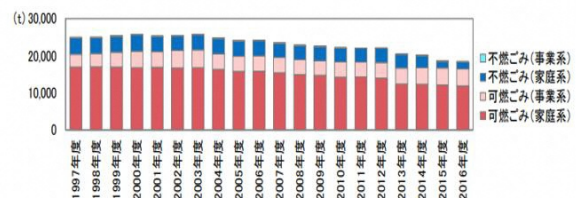
○ごみ処理量は経年的に減少傾向となっています。
とりわけ、**家庭から排出される可燃ごみ及び不燃ごみ**が減少しています。

図 住宅の建築時期の構成比



出所：城陽市地球温暖化対策実行計画を基に作成。

図 城陽市におけるごみ処理量の推移



11

城陽市の概要④

○**2027年度の新名神高速道路の全線開通**を機に、京都府南部地域の活性化へとつながるよう、東部丘陵地をはじめとした新たな産業の創出・集積に向けたまちづくりが進められています。
(全線開通予定は、工事事情等により当初予定2023年度から2027年度に伸ばされています。)

○JR奈良線では、高速化・複線化第二期事業の実施により、**2023年度春を開業予定**として、**「京都―城陽」間ですべて複線化**されることで所要時間の短縮や定時性の確保など、利便性が向上することが期待されています。

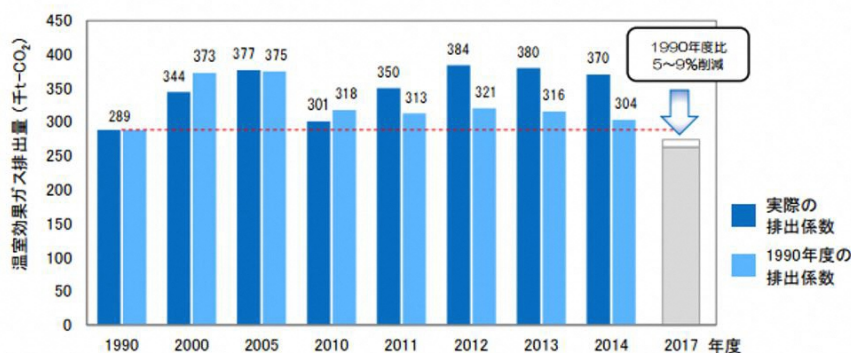


12

温室効果ガス排出量の推移

○城陽市の温室効果ガスの排出量の推移をみると、**2014年度において、基準年度である1990年度比28%の増加となっています。**

図 城陽地域の温室効果ガス排出量の推移



出所：城陽市地球温暖化対策実行計画を基に作成。

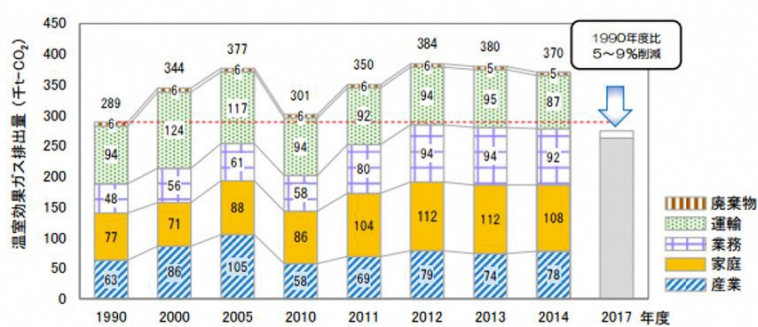
13

部門別の温室効果ガスの排出量

○部門別の温室効果ガスの排出量は、**業務部門**は2014年度において1990年度から2倍近く増加しています。同様に、**家庭部門**も約40%の増加となっています。

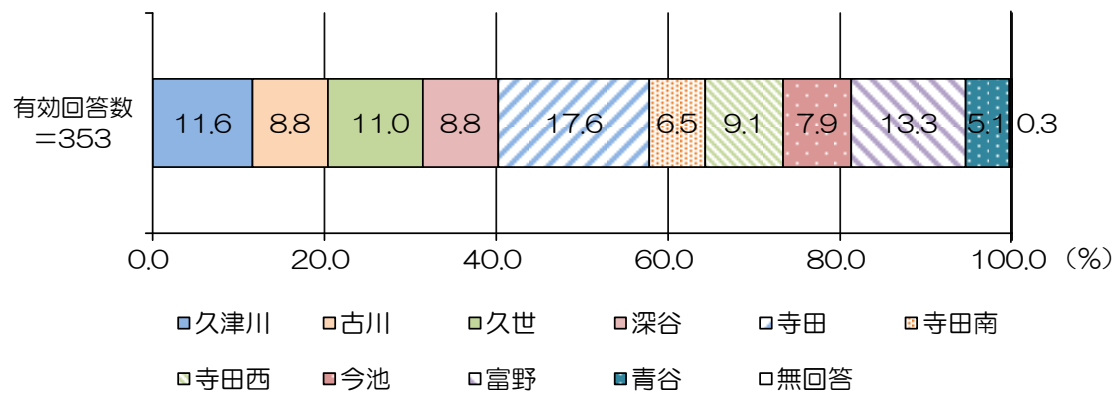
○一方、**運輸部門**では2014年度において、1990年度比8%の減少となっています。

図 部門別排出量の推移

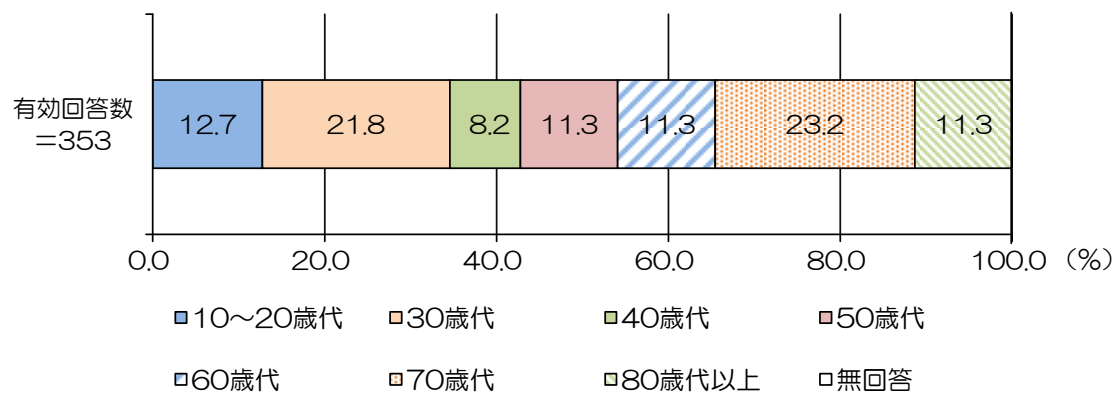


出所：城陽市地球温暖化対策実行計画を基に作成。

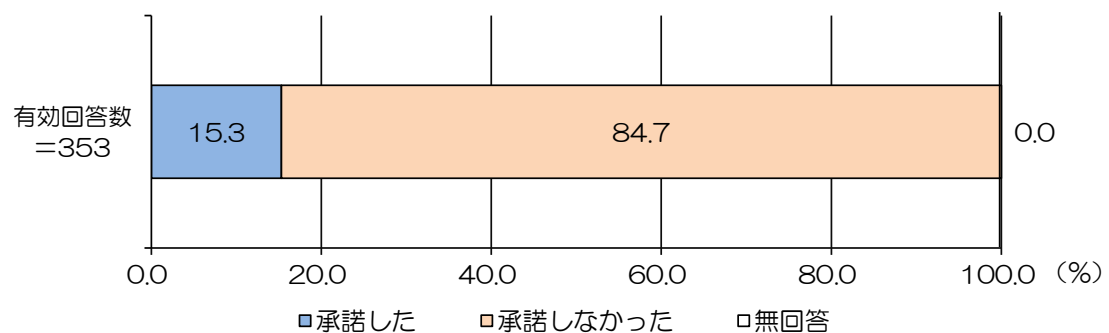
質問 1 お住いの小学校区を選んでください。



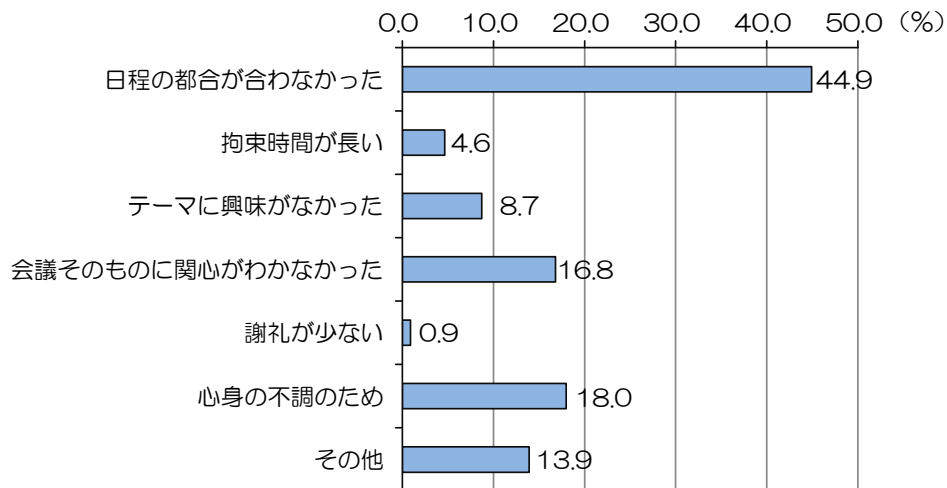
質問 2 年齢層を選んでください。



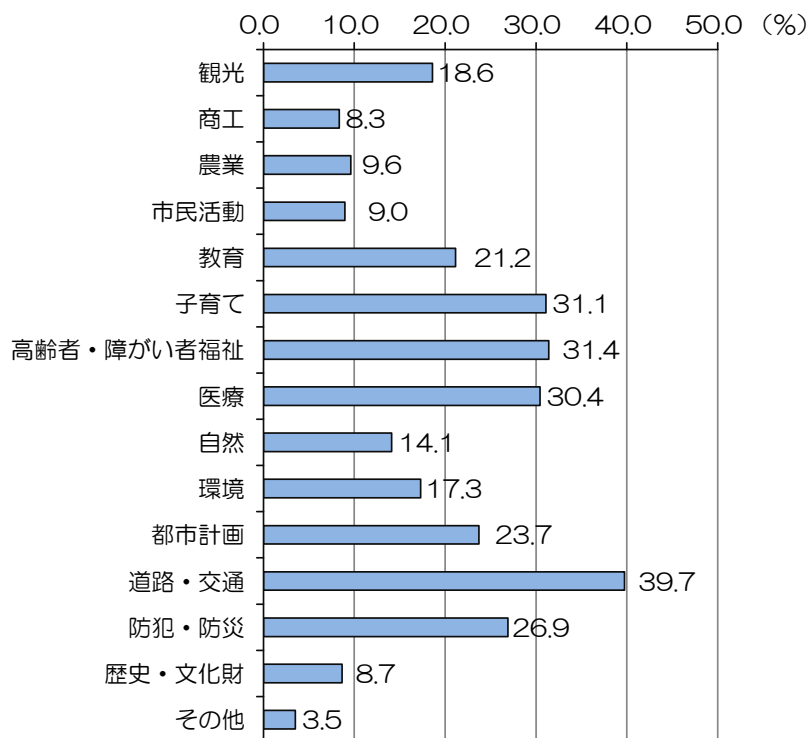
質問 3-1 城陽未来まちづくり会議への参加を承諾しましたか



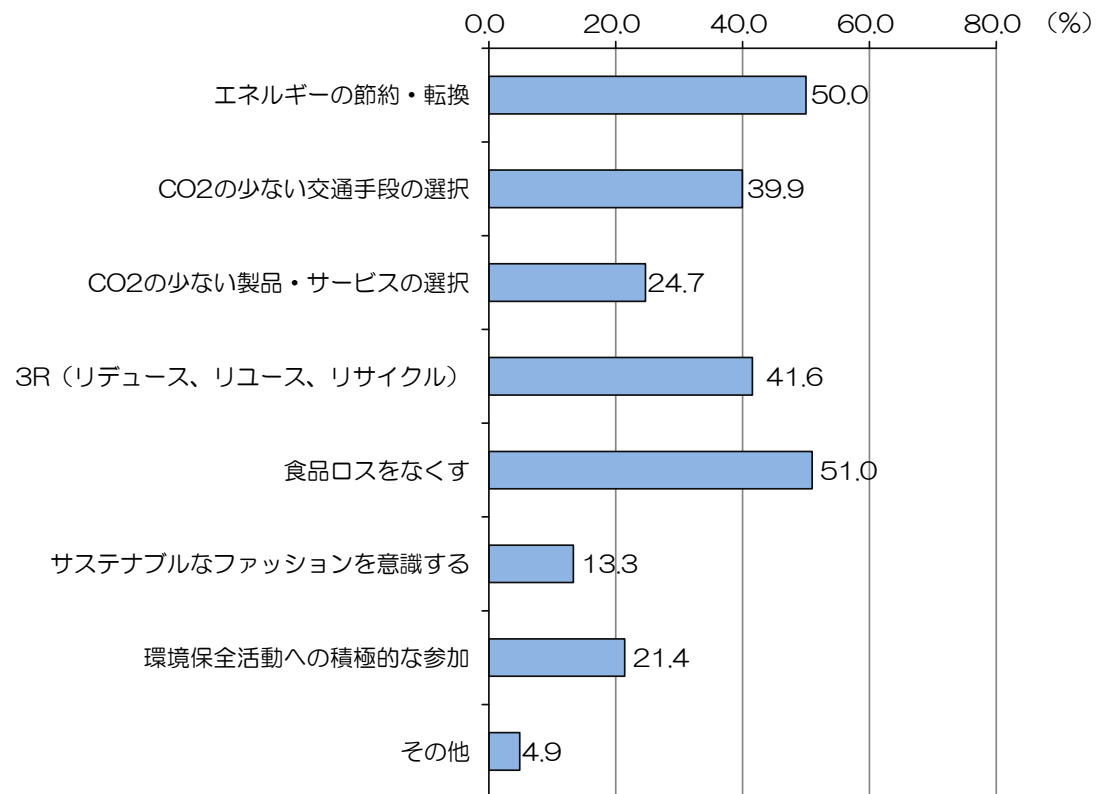
質問 3-2 質問 3-1 で「承諾しなかった」とご回答された方にお伺いします。
参加を承諾されなかった理由は何ですか。（複数回答可）



質問 4 今後、城陽未来まちづくり会議で扱って欲しいテーマはありますか。
（複数回答可）



質問 5 城陽市が「ゼロカーボンシティ」を実現するためには、こういったアクション（行動）が必要だと思いますか。（複数回答可）



質問 6 質問 5 で選択した項目について、具体的に何を行っていくべきだとお考えですか。ご自由にご記入ください。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取り組むべきこと
エネルギーの節約・転換	木津川で水力発電など、転換できる再生可能エネルギーを考える。
	SDGsを進めることを着実にやっていくことが大切。城陽市だからできることを。エネルギーの節約・転換が大事だと思って、災害に備えてほしい。住宅の断熱等の改修に補助金を出していく方向も大切な具体的なことだと思います。これをするすることで、電力などの節約につながるのではないかな。
	身近にできる取り組みを実施していくことが大切だと思います。無理のない範囲での節電、節水など。
	エネルギーの節約、転換。
	土砂災害があるという山の傾斜を平らにしてソーラーパネルを設置できないのでしょうか。
	メタネーション。CO2からメタンガスを生成する技術を使い、CO2を資源化し、ゼロカーボン達成する。電力やガスなどのエネルギー問題（プラスチックのサーマル処理施設からのCO2回収により）、廃棄プラスチック問題を解決するというもの。現在、いくつかの企業が実証実験を行っているが、一企業レベルの実験であることから、コスト面で頭打ちとなっている。国家プロジェクトとして取り組むことでコスト面で解決する。
	エネルギー革命。
	城陽の中でも比較的広い土地がある地域（青谷など）があるので、先行投資として太陽光パネルを設置してはどうですか。
	原発の利用を高める。
	化石燃料に代わる新しいものがないか。
	蛍光灯からLEDへの転換。
	防災無線の定時放送と市役所の定時チャイムの音量と回数を減らすか廃止する。大音量で1日何回も鳴り、近所迷惑この上ないし、大音量で日常鳴らす必要は全くなく、電力の無駄だ。防災無線の動作確認音は周囲2～3mだけ聞こえる音量で、回数も週1や月1で良い。近所の者は年中無休、毎日苦痛で心底迷惑だ。言葉による放送も十数m位離れると音が散って文や言葉が聞き取れず、「でかい音で何か言っている」位の認識になり、放送自体意味がない。やかましく迷惑なだけで。市役所のチャイムを朝7時、夜9時半も遠く離れたところまで聞こえる大音量で鳴らす必要を全く感じないし、むしろチャイムがない方が静かに暮らせて喜ばしい。別になくても困らない、必要性を感じないものにわざわざ電力を使うのをやめる、廃止する。
	全ての項目について書くことはできませんが、例えばエネルギーの節約とかだと時間帯を決めて完全に使わないようにする提案や、市民に節電アイデアを募集して広報に載せるなど。取り組みをしたかどうかの確認がどれもしにくいけれど、子どもも大人も興味を持って取り組めるような内容を引付けて打ち出すと、意識づけもできるように思います。
	バイオマスや温度差熱利用など。
	エネルギーの節約→各家庭での早めの消灯を促す（早寝早起きで健康な体づくり、夜空を見上げて星の観察をして自然に触れるなどのメリットがある）。
	エネルギー、食品、環境など個人で管理、使用、保管、節約などを考えて行動する人を増やす運動を展開する。
	ごみ処理の時に発生する熱をエネルギーに転換できないか。起こりうるであろう太陽光パネルの劣化のメンテナンスをして、産業廃棄物を増やさない。広報に掲載されていた「ゼロカーボンシティ」の記事のように、学校や市民（子どもから大人まで）に伝わりやすく届ける必要がある。
	エネルギーの節約→夏は薄着をし、無理のない範囲で暑さに対応できる体づくり。冬は保温性の高い服を着る、湯たんぽなどの利用。
	CO2を出さないエネルギー生産技術の確立。
	原子力の技術保持、開拓、技術蓄積、研究で未来を拓く。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取り組むべきこと
エネルギーの節約・転換	城陽市は高い建物がないため立地を活かした太陽光発電の設置、地域巡回コミュニティバス（電気自動車）の運用。アウトレットへのアクセスとして電動自転車の活用、促進など。私の近辺でも高齢者が増え、買い物に困っている方が増えています。もっとコミュニティバスなど寺田近辺だけでなく、城陽一円を補ってほしい。初期投資は大変ですが、まちをアピールし子育て世帯の誘致につなげてほしい。
	節電、公共交通機関の利用。
	エネルギーの節約・転換。太陽光パネルをもっと家に付けられるように国や市が支援をすれば、原子力発電を減らせる。また、自宅で電気が作れるので、無理に節電をしなくても良いと思います。CO2の少ない交通手段として、電気自動車や水素エンジン車の価格を下げて、もっと普及できるようにする。
	エネルギーの節約・転換とCO2の少ない製品・サービスの選択。
	土地を活かした再生可能エネルギーへの転換（風力や太陽光発電など）。リユースを意識した古着のバザーのような大規模な催し。
	スーパーやコンビニなど、日中は日光を利用して光を取り入れて節電を心掛ける。ペットボトルや紙パック、トレー、アルミ缶などの回収ボックスの設置を増やす。
	太陽光発電をもっと設置しやすいよう、メリットになる特典をつける。大型ごみ回収がもう少し簡単に、平日以外も手続きできるようになれば、不法投棄が減るのではないかな。
	節電をこまめに行うこと。一時期、太陽光パネル発電が普及したが、政府が売電価格を値下げしたため鈍化した。もっと積極的にしてほしい。自転車道の整備・買い物客にはポリ袋を渡さない。赤とんぼを見かけなくなった。
	再生可能エネルギーへの転換や蓄電池の利用などで、長距離送電網を利用することなく小さなグリッドで電力を賄えるよう、地域で独立した形でエネルギーの供給を賄えるような土地活用も含め、制度設計が必要かと考えます。食品ロスに関しては、他業種間での残り物を融通し合うなど、市のホームページなどに廃棄予定の食べ物などを掲載し、購入者を募る場を設けることもありかと思っています。
	家庭でできることは節電、フードロスをなくす、ごみの分別などできることは今までの家庭でもされていると思います。私は市政でできる手助けが必要だと思います。例えば、国保の医療を減らすために高齢者への運動助成（病院通いの高齢者を減らす）。また、自転車の利用は坂の多い地域では、車を手離すと買い物に行けない。もっと地域に寄り添った市政を考えていただきたいと思います。
	今年度を振り返り考えると、私生活に関わる問題として節約・節電、また食品などのこともいつも考えております。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取組むべきこと
CO2の少ない交通手段の選択	バスの路線をもっと増やす。こういうお便りなど若い世代にはWEBです。紙を送ること自体がもったいない。
	特にCO2を使用しない「水素エンジン車」の利用が手っ取り早いのではないかと思います（まずは市の公共交通機関で宣伝→数年後に一般家庭でも買える値段まで落ち着いた時の布石になる）。
	子どもからお年寄りまで安全に自転車を活用できるまちづくりと安全教育。
	JR山城青谷駅の駐輪場および歩道の工事の早期実施を望む。雨風などで路面が悪く、高齢者の方、幼児が危なく歩いている。青谷小学校上り、南城陽中学校の車道が狭く、通学時に危険を伴う（自動車、歩行者両者にとって）。雨の日などは特に傘を差している歩行者の危険を感じている。アウトレット開業が目前に迫り、近く周辺の道路整備を望む。また、青谷地区よりの路線バスを実施してほしい。現在、タクシーのみの実施だが実施時間が限られており、このような環境下ではますます若者が城陽郊外へ行ってしまう。過疎化が進む要因だと感じる。
	レンタサイクルシステムの実現。
	充電ステーションの整備。
	今の城陽市は歩道が狭く、自転車専用道路がなく、少しの買い物でも子どもがいると車で出かけざるを得ない。子どもやお年寄りが安全に乘れる道や歩道を作れば、少しは車で出かけることが少なくなると思います。
	鉄道駅付近の低額な駐車場の整備（パークアンドライドの推進）。市民一人一人が自身にメリットがあるとイメージできるような伝え方でゼロカーボンシティに関する啓発を年代ごとに適切な方法により行う（各種イベントでの啓発や文書の送付など）。
	城陽市はバスが少ないので、車利用者が多いと感じます。高齢者が多い地域でもあるので、病院やスーパーなどを巡回する交通手段があれば良いと思います。
	城陽さんさんバスを電気自動車にする。
	城陽さんさんバスの路線拡大。
	CO2の少ない新しい交通体系（レンタル自転車など）を取り入れ、市内の移動に活用する。
	自転車用の安全な道路整備。
	休耕地をやや空き地を使って駐車場を確保する（パークアンドライド）。ボランティアによらない方法でごみ拾い活動をする（参加した人は減税するなど）。
	スーパーやショッピングセンターに行く際に、自家用車の使用を控える。
	バス網の整備、ガソリン車の廃止（公用車含む）。減税、電気自動車購入補助金の創設。
	サイクリング用に貸自転車を設置するべき。木津川堤防までの遊歩道を充実する。堤防まで徒歩または自転車で行きやすいように歩道または自転車道を充実してほしい。
	自転車専用道路の整備。市内のスーパーにフードドライブの協力をしてもらう。
	電気自動車の普及とコストメリットが良ければ大きく変わると思います。
	できる限り公共交通機関を利用する。電気自動車の購入を促進するため、補助金等の充実。
	自転車利用の促進をすれば健康にもつながる。そのためには、駐輪場の利便性の向上が必要。再生可能エネルギーへの転換なども大切だが、時間がかかりすぎる。市民が身近に取り組みやすそうなものを推進していくべきではないか。
	ノーマイカーデーを月に何日か設定する。
	電気自動車などへの乗り換えに補助金を出す。充電ステーションの拡充。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取り組むべきこと
C O 2 の 少 な い 交 通 手 段 の 選 択	自転車利用で危険を感じる道路の改善（車両のスピード制限等を含めて進める）。
	電気自動車の購入、不要なものは買わない。
	自転車の通行しやすい道路整備。自転車、電動自転車購入の補助金。自転車のリユース。高齢者のための交通手段の充実。
	車を電気自動車にする（音が出ないと、高齢者の事故につながりかねないので、音は必要）。身近なことでいえばごみをもっと管理する。環境破壊につながっているという意識のない人が特に若者に多いので、今のツールであるYouTubeなど、興味をひく媒体を使って、現状を知ってもらう。
	公共交通機関の整備、道路の整備。CO2の少ない交通手段を選択するためには、より路線バスの拡充が必要。特に久津川は寺田と比叡市営バスも少ない。また、道幅も狭く自転車の運転も怖い。2年前に市内に引っ越してきましたが、初めて城陽市に住んだ妻は子育てをしながら、「この市で暮らしていくためには運転できないといけない」と言っています。「ゼロカーボンシティ」の流れを逆行し、ペーパードライバーなので運転の練習をしようとしています。環境問題に取り組むことの重要性は誰しも分かっていると思いますが、それに取り組むためには日常生活レベルでの市民のメリットが明確化されないといけないと思います。高齢者、子育てママ（パパ）を中心に、車に乗らなくても安心して生活していけるだけの交通環境の整備が実現されるとありがたいです。ひいてはそれが「ゼロカーボンシティ」の実現につながるだけでなく、子育てしやすいまちなど多方面で評価される城陽市へつながっていくと思います。新名神高速道路、アウトレット完成により、今後市内のCO2、自動車走行台数は増加すると思います。電気自動車などの普及が進むとはいえ、現ガソリン自動車ユーザーに向けたバスや自転車などの代替手段の提案がないと、自動車からのCO2排出量削減は大変なものだと思います。
	実際に「ゼロカーボンシティ」を実現するには、自治体だけでは予算の問題もあり、難しいと思う。企業とタイアップしたり、資源豊かな他の自治体と協働でアイデアを出して進めていくべきだと思う。電気自動車を貸し出すとか、シェアするとか。最近自転車もフームなので、それも目的地で乗り換えたりできるステーションを設置する。具体的にどんなことなら始められるのか、市が積極的に広報してもう少し身近なものとして捉えられるようにしてほしい。
	車社会に対する効率優先。高齢者が多く使用する電動自転車（買い物など）、子育てが世代が多く使用する自転車に対する交通道が車優先なので、自転車専用道を数か所設けるなど、昔の馬車が荷車が通ったと思われる道を自転車等専用道路にするなど、よろしくお願いします。
	鉄道、バスなど環境負荷の低い交通手段を使いやすいサポート。自家用車を持たない。免許を返納した人、ゼロカーボンに協力的な家庭が交通費の面で得をするような仕組みがほしい。
	電車、バスの利用促進。城陽さんさんバスの本数増加（特に夜間）。
	自転車の利用をもっと活発化した方がよいと思うが、道路が狭く、子ども達も安全に自転車で移動できない。道路整備（自転車道）をしてほしい。
	電気自動車の導入。太陽光発電（ソーラーパネル）の推進。
	電気自動車が流通しているので、充電できる場所を増やすこと。自転車はこれからも政策として広めていきつつ、自転車での事故などの啓発は必要だと感じる。古着などのフリーマーケットの実施。
	マイカーでなくバスや電車を利用する。賞味期限間近の食品でも販売する。
	電気自動車の利用。スーパーやコンビニ等のロスを減らす。
	城陽さんさんバス以外での交通手段。食品ロス削減に向けての具体的な取り組みと伝達手段。
	自転車の駐輪場を増やす。食品ロスをなくするため、家庭での料理方法を広報のコラムにする。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取り組むべきこと
CO2の少ない製品・サービスの選択	一人一人の理解がまず必要だと考えたため、各店にチラシを張ったり、アナウンスを流して取り組みを知ってもらおう。マイバッグ持参などのルールを作る。
	まず最初に、一人一人が意識をして取り組むことはもちろん大事だと思いますが、今の世界情勢を見ていると、各地で戦争を起こしたり、ミサイルを飛ばしたりだと小さな力ではとてもこのような問題に立ち向かうのは難しいような気がします。まずは、一人一人の教育を充実させていくことが大切だと思います。そしてあとはCO2の少ない製品を開発して製作していけるような施設があれば城陽市も発展していけるのではないのでしょうか。
	JOYOなどの地域をPRしたグッズを作るとか、もっと買い物するとエコバッグ代を引いてくれるサービスがあれば使います。
	都市開発とゼロカーボン是非常に相性が悪い。城陽市は今後、都市開発を続けていく必要があるため、ゼロカーボンに取り組むなら、できるだけ環境負荷の少ない技術を選択していくしかないと考えます。再生可能エネルギーは設備が老朽化していくことも視野に入れるとあまり良いものではないと考えます。
	エコバッグで買い物をしているが、そのことでどれだけCO2が少なくなったか結果を知りたい。食品ではプラスチックの入れ物が多いと思う。
	コンビニに行くときは必ず袋を持参するようになった。煙草の吸殻も自分で持ち帰り、ポイ捨ては止めてます。
	マイバッグの使用は大きく広がっていったが、マイバッグを使用する理由が「有料のレジ袋を購入したくないため」という人も一定数いると感じる。「環境問題の今」と「なぜ3Rを実践すべきなのか」と正しく理解している人が増えるよう、知らせていく必要があると考える。
	家電製品を購入するときは、省エネ性能の高いものを買う。太陽光パネルをもっと安価で設置できれば考えたい。
	CO2の少ない製品、サービスの選択で具体的にどんな物があるのかを提示する。若い人たちにポイ捨てなどをなくすよう認識していただきたい。3Rは既にやっているので、できているとは思いますがまだ浸透していない。
	エコやサステナブルを考慮した製品の購入（余計なものを買わない）。節約にもなるし、家も片付きごみも減る。3Rについては、園や学校の制服や学用品のリサイクル市を、市がやってくれるとありがたい。そういう仕組みがあると親として助かる。物価が高くなり家計を圧迫しているので「節約」と「エコ」、「ゼロカーボン」の3つを組み合わせで考えたい。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取るべきこと
3R (リデュース、リユース、リサイクル)	何事においても無駄を少なくして物を大切にしていくこと。
	リサイクルごみのステーションをもっと増やす。何がリサイクルできるかを分かりやすくアナウンスする。
	城陽市は以前住んでいたところと違って、家庭用粗大ごみの回収が不便で処理に困り、お金がかかりすぎる（テレビ、冷蔵庫、エアコンなどは別として）。家庭で使う自転車、タンス、電子レンジ、掃除機、机などを回収できないものか。よく散歩に行くが、山の手の道路脇の藪のなかに、洗濯機やタイヤ、金属類が不法投棄されている。
	売れ残りの消費期限の近い商品を激安価格で市民に提供するシステムを確立する（学校の購買部やスーパー、城陽のコミュニティ施設で販売するなど）。
	不用品の交換施設を設置。生ごみの処理が各家庭でできたら良い（乾燥、肥料化）。
	ごみになることを少しでも減らしていきたい。別の物に生まれ変わらせ、それを再利用できれば良い。
	特に3Rが重要だと思います。マイバッグ、マイボトルの持参だけでは効果は薄い。持参した人にはポイントを付与するなどの加算をすると、持参する人が増えるのではないかと思います。
	ごみの分別（ペットボトル、缶、ビンなど）。世帯ごとに袋に入れて集積所に出すのではなく、大きな入れ物に洗ってそのまま入れるようにすれば、袋を使わずに済み、エコにつながると思います。
	ごみ拾いも良いが、捨てる人がいる限りきりが無い。日本人はごみは回収すると称賛されているが、ごみを出さない方法にもっていくことの方が大切。消費や便利さから飲料水もビンからペットボトルへ、新聞紙で包むところからプラスチックケースへと移り変わっていった。今さら鍋を持って豆腐を買いに行くことは現実的ではないが、できるだけ再利用できるものへと変えていくことが必要だと思う。
	プラスチックごみを減らす。
	何でもすぐに買い替えたりせずに長く使う（ごみも減ると思います）。生ごみなども本当はコンポストなどで肥料に変え、ごみの量を減らしたいと思っています。
	ごみの分別をもっと細分化し、回収・再利用できるようにしないと、廃棄場も将来困ることになる。
	使いやすい食料品はプラスチック容器に入っていることが多いので、時々手作り品を作り、容器をごみとして出す回数を減らしていきたいです。
	資源ごみの集積所、家具、電化製品、雑貨の再利用場所がない。もったいない物が多すぎる。もっと大切に物を使用しよう。
	3Rについては、隣接市などとの話し合いも必須となるでしょう。フードロスの件については、市独自でもある程度の取組は可能と思われます。CO2削減については、市・府・国単位での取組が必要と思われます。
	3R（リデュース、リユース、リサイクル）。食品ロスをなくす。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取り組むべきこと
食 品 ロ ス を な く す	現在は食べる物が多くあり、どうしても余りが出るため、残飯だけ別の袋に入れごみと分別して肥料に使用して土に返す取り組みをしてはどうか。
	飲食店、施設等での食品ロスを減らすために何をすべきかアイデアを出し、考えを共有してロスを減らせるように取り組んでいくべきと考えている。
	外食の時、食べられる量を注文し、もしその他にほしいものがあれば追加をした方が良いと思います。余分なものは買わない。
	フードドライブを増やしたら良いと思います。
	ゼロカーボンシティの課題が難しい。私には無理だと思います。個人では車も運転しますし、また食品ロスをなくしたり、衣類は買わなくなったり、必要な物だけを買うようにしている。
	廃棄食料を減らす（農家、スーパー、家庭）。形の悪い野菜、消費期限の近い食品の販売、再利用可能なもの（食器やトレーなど）の使用を促進する。
	一つの家庭で食品ロスをなくすことによって、城陽市でみた時に大きくなる。子どもは大きくなるのが早くて服などすぐ着れなくなるので、長く着れるように買ったり、年下の子にまわせるように綺麗に使うよう意識する。
	食べられる分だけを購入するなどの取り組み。
	賞味期限が近く廃棄される食品を集め、貧困家庭や児童福祉施設などに無料配布する。
	形の悪い、規格外などの商品も品質に問題がなければ販売する。
	地域の個人商店などで廃棄される食品を城陽市内の高校で安価で販売するなどして、食品ロスをなくす取り組みなどはいかがでしょうか。
	ペットボトル、食品トレーの回収にポイントを付与する。フードドライブ、食料品回収の場所をもっと増やす。
	廃棄食品の再利用。
	必要な分だけ購入し食べきる。ごみの分別を今まで以上に意識して取り組む。
	安いからといって大量に買うのではなく、ほしい分量だけ少量を買う。大量に買って腐らして捨てるのはもったいない。変形した野菜は安くして売る。
	食品ロスをなくすというテーマには、考えられることが大いにあります。昭和20年代に生まれ「豊かな食事」の中で食べ残しなどが考えられる現況には、地球で生きていることに考えさせられることがおおいにあります。
	廃棄される農作物を困っている家族に分配するなど。
	市民が一番身近で誰もが気を付けることができることと言えば、「食品ロス」だと思う。一日三回のことだし、小さなことでも大きなロスにつながると思う。
	賞味期限直前の食品を安く購入できる仕組みづくり。自転車が走りやすい道路の整備。
	私はフードロスをなくすことに個人的に興味を持ちました。フードドライブだけでなく、フードバンクの取り組みを進めることによって協賛してくださった地域の企業、農家の方々にも利益が生まれるのではないかと考えます。さらに、3Rの取り組みも身近なものから始めやすいと思うので、城陽市の中で取り組むべきだと考えます。生活スタイルに大きく影響してしまう取り組みよりも、まずは身近にできることや親しみやすいことから取り組むべきだと考えます。
	食品のロスが最も重要。雑草の駆除、ごみ拾い活動。人とのふれあいの場づくり。
	ロスになりそうな食品の集積、分配拠点の設置。原発の再稼働を視野に入れる。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取り組むべきこと
環境保全活動への積極的な参加への	植林や林の間伐、農閑期にクローバーやレンゲソウをまく。
	環境保全活動への積極的な参加。新名神高速道路が開通した時、その道路から城陽市を見た時、緑豊かなまちだと見えるように並木通りが続いた長い道を想像します。植林に力を入れたいと思います。ごみ拾いは家の近所だけでなく、散歩している少し遠い場所の川べりを拾っています。
	自然保護。
その他	具体的にに取り組むことはよく分かりませんが、市民一人一人の意識改革につながる取り組みが必要かと思います。
	市が「ゼロカーボンシティ」に挑戦していることを知りませんでした。市民や市内企業に対する広報を強化すべきだと思います。
	組織的な取り組みは様々な問題があり、ハードルが高い。まず一人一人、個人としてできることから始めるのが良いと思う。
	個々の意識が大事なかと思っています。
	交通が不便。観光客が少ない。
	まずはカーボンニュートラルは国家間（特にOPEC）とG8が取り組むべき課題であり、町や市町村は「カーボンニュートラル時代に対して子どもが暮らせる世界」を維持することが先決だと思います。先日、明石市の泉房穂市長が市議会と口論になり、市長の退任を表明されました。SDGsは人が存続してこそ可能になるものです。明石市も城陽市と同様、ベッドタウンという地理的要因が功を奏し、税収が今では1.6倍にも増えているそうです。人口が増えれば経済が動き、環境が変わり、より良くなると思います。
	全てのものにおいてですが、ゼロカーボンシティを実現するための環境づくり（環境問題+αのメリット）ができれば、実現に一歩近くなると思います。
	地道な活動の積み重ねかと思いますが、自然が豊かな土地を活かす。また、新開発の進むエリアのCO2対策や「ゼロカーボンシティ」の実現にかかるアクションの推進。住民や企業を上手く巻き込む工夫をしてください。
	高齢者、障害者も安心して暮らせるような入居施設を増やしてほしい。
	質問5の選択肢として記載されている「ゼロカーボンシティ」を実現するために必要なアクションは、すべて取り組まないといけないと思います。
	ごみの分別について市民啓発をもっと進め、その効果を見える化して市民の理解を深めてもらう（プラスチックごみを食品などが付着したまま出す人が意外と多い。何のために実施しているかの理解が広まっていない）。農業を守る施策を推進することで、緑を確保することにつなげていく。
	CO2を排出削減できたところにお金やポイントを与える。
	城陽市の現状について理解してもらうことが大事であり、その後テーマを絞って検討すべきである。
	散歩中に目につくのは、平気で捨てられているペットボトルや空き缶、用水路を流れているプラスチックごみ。心が痛みます。意識を高めることの必要性を強く感じます。
	テレビの大食い番組の放映を止める。
	城陽市が「ゼロカーボンシティ」に挑戦している内容を知らせる必要があると思います。例えば中・長期ビジョンなど。
	市民が何から取り組めば良いのか、具体的に示してもらおうとやりやすいと思う。新名神高速道路（城陽JCT・IC）の開通により、車が増えることはCO2削減につながらないと感じる。
	そもそも論ですが、「ゼロカーボンシティ」が浸透していない。抽象的な意味やイメージなので具体的な目標や分かりやすいネーミング（日本語）をお願いしたい。
	よく考えて買い物をする。シンプルに生きる。

主なジャンル	【質問5】で選択した項目で、具体的に取り組むべきこと
その他	昨今、特養老人ホームが新しくできていますが、要介護度にもよるが利用料が高くて並みの年金暮らしの人では、入所できる金額ではない。設備も大切だが、高齢者が増え続ける今、もっと利用可能な金額にするか、多くの人が利用可能なホームを考えていただけないものか。老人の方々は子どもたちに負担をかけまいと一人暮らしや行き場のないようになるのではないか。グレードの高いホームより、多くの高齢者が利用できる施設を考える時ではないか。
	インバクトがあり、他の自治体からも注目され、市民が積極参加する気になる。「クリーンなまち 城陽」を高齢者の比率がどんどん高まっていくなかでどう実現させるか、難しいテーマである。
	「何に取り組むべき」というより、自分の身近なところでできることを取り組むよう心掛けています。
	ゼロカーボンという大層なものは、一つの市では無理じゃないでしょうか。スマートシティや新規都市開発を機に、徹底した省エネ設備でもできれば良いですが。物流センターやアウトレット建設時に自治体と共同でゼロカーボンに貢献できる仕組みを創設したとかになれば、まちのイメージをアップできるのではないかと思います。
	動物を飼っている人のマナーが悪すぎるので、動物に下着を履かすようにしてほしい。どこでも糞をしている。
	意識を持つこと、関心を持つこと。設定されたテーマもありますが、日常生活の中で一人一人の小さい努力が大きいものにつながると思って、ささやかなことを心掛け生活を営んでいます。
	市民への意識の呼びかけ。
	「ゼロカーボンシティ」の実現に向けてはアンケートの設問5の選択肢にある取り組みはすべて必要なことだと思います。老人であっても参加可能である場合は、積極的に参加しようと思い、できることは楽しんでやっています。デイサービスセンター百歳クラブにて、介護保険も有効に使わせていただいています。
	一つ一つの取り組みも大切なことだと思いますが、少しでも多くの方に環境について考えてもらえる機会（イベント・チラシなど）を作って、関心を持ってもらえればと思います。
	荒廃している森林、田畑、海等の再生産化。自国で使う60%は自国で作り、補う。経営が成り立つよう就労人口を増やす。未来に向け、国が成り立っていきける工・産・商・農・水産業などに研究費、施設、研究者の増加。
	市町村単位でやれることは限られており、この問題は国がより強く働きかけ、それに従うくらいだと思います。その上でもしできることがあるとするならば、市が空き地を購入し、補助金も出して農地と生産者を増やすことだと思います。そうすることにより、建設などの際、排出されるCO2は減少し、生産者の農産物が市の市場に出回ると包装などに使われるプラスチックなどが減少すると思いました。
	各地域のごみ捨て場の整備。現状は各自治会にて協議・管理しているが、自治会に入っていない家族もあるため、市と一緒に協議・改善してほしい。
	誰もがそれを実現したいと思えるようなアクションを考えること。身近に簡単に組み立てて、我が事として考えてもらえるために必要なことは何かを考えること。

注：記述による回答については、漢字への表記替え、句読点や誤字脱字の訂正、表記の統一以外は原文のまま掲載しています。

5-3 参加者のアンケート結果

(1) 城陽未来まちづくり会議に参加してみても

「城陽未来まちづくり会議（55人委員会）」終了後に行ったアンケートでは、参加された49人のうち45人からご回答いただきました。

アンケートによると、回答者45人のうち、43人が「良かった」と回答しています。

	良かった	良くなかった	どちらでもない	無回答
件数	43件	1件	1件	0件
割合	95.6%	2.2%	2.2%	0.0%

(2) 今後の「城陽市のゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと」について思ったこと、感じたこと

今後の「城陽市のゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと」について思ったこと、感じたこと
大きな変化や削減を目指すのであれば、費用がかかってしまうし、個人で取り組むのは難しい。太陽光パネルや電気自動車の購入など。今まで意識していなかったけど、「ゼロカーボンにつながっていたんや」と気づきがあり、そういう方々を増やしていき、一人一人が小さなことから取り組んでいけたらなと思いました。
車の使用を1台でも多く減らすことがゼロカーボンシティの実現への近道である。そのために、駅の周辺環境整備に力を入れたり、バスの運行を大幅に増やすなどを実施してほしい。
（会議に参加した）皆さんのバスへの使いにくさなどを実感して、その整備をすることは必要なかと思いました。一つずつ、身近なことで、誰でも取り組めることから、みんなが楽しんでやれるようにしてスタートするのも良いかと思います（古紙回収でポイントや福引券など）。子供たちに”リサイクル”を知ってもらうために、”小学校対抗リサイクル対決”とかで競って意識を高める！などの取り組みも子供たちも楽しめて実感できる、かつ広報としても有効かなと思います。
普段からの意識が人によって大きく異なることが分かった。現実的にできることも多く、これからも意識しながら変化を感じていきたい。
今回、この様なお話を頂くまであまり深く考える事のないことだったので、良いきっかけになりました。また、普段同じまちに暮らしている人達の城陽市、周辺環境に対しての想いや考え方もよく分かり、とても勉強になりました。私は主にマクロな視点からお話させて頂いたのですが、大きな方向性としては皆さん共通しているのかなと感じました。最終的には自分へのメリット・デメリットで考えるので、そういう部分では不満も出てくるかもしれないですが、頑張っていければと思います。今回地方自治に関して興味を持つ良いきっかけになったので、これからもこのような機会があれば、怖がらずに積極的に参加していきたいと思っています。ありがとうございました。
「ゼロカーボン」という言葉とその意味についてもっと広げていかなくてはならない。子ども達に小さい頃から教えていった方がよい。道徳教育の中でも生活の中で考えられる環境問題をやさしく取り入れて教えられたいと思います。老人、幼児、身体が弱い人のためにバスなどの利用をもっと使いやすくしたい。（乗り合いタクシー、乗り合いバスなど）。電気自動車の補助（充電スタンドを作る）。新名神高速道路、アウトレットと道路、山が荒れている。木を植えて緑を多くしたい。
企業誘致を行うことで税収を増加させ、市民の電気自動車（EV車）購入代金支援に充てるなど、頑張っていきたい。企業誘致を行うことで税収を増加させ、市民の電気自動車（EV車）購入代金支援に充てるなど、頑張っていきたい。企業誘致を行うことで税収を増加させ、市民の電気自動車（EV車）購入代金支援に充てるなど、頑張っていきたい。
普段あまり話す機会がない方の意見を聞けて勉強になった。プラス面だけを見て突っ走るのではなく、色々な面を見て考えないといけないと思った。まず関心を持つことが大事で、こういう話し合える場所があれば良いと思った。意見にあった「歩きたくなる道」はとても良いと思った。

今後の「城陽市のゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと」について思ったこと、感じたこと
「魅力のある城陽市」 ・企業誘致をして税収をあげる。 ・地産地消のものを広める。 ・ふるさと納税に力を入れる。 ・ポイント還元。 ・バスの本数を増やしてほしい。 ・歩きたくないような道をつくる。
私は、ゼロカーボンシティ実現を目指すには、単に車を使わず、できるだけ歩いたり、自転車を使うようにし、一人一人が気を付ければ良いことだと思っていました。しかし、実際はそうでなくて、車を利用するのもそれなりの理由があり、まずは城陽の道を整備するなどして、人々が歩きたい、自転車に乗りたいと思える環境を作る必要があるという事に気付きました。また、道を整備するにしてもそれなりにコストがかかるため、どのようにして道を整備するための費用を用意するべきなのかということを考えさせられました。一つのことを実現するには、一人一人の心掛けだけでは負荷がかかってくるところがあるので、その負荷を減らし、より皆が納得できる形でゼロカーボンシティの実現を目指すには、国や市、金融機関などからの援助をお願いしたいと思いました。
「広報活動、啓蒙活動」・・・市民の理解、協力が必要。 「税収をあげる施策が必要」・・・何をしてもお金が必要。 「城陽市の認知度UP、魅力度UPの取り組み」・・・ゆるキャラ、サンガタウンなどの活用。
やはり先立つものはお金が必要なので、税収をあげる取り組みを積極的に行なってほしい。
一人が取り組んでも効果は得られないと思うため、一人一人が意識を持つことが大切になると感じ、チラシや駅などの公共の場など人が暮らす中で目にするところに広告を出すなど、城陽市がこのようなことをしていると、まず市民の認知度を上げることが大切だと感じた。ポイント、サービス、キャンペーンなど、人々がやりたくないような方法で環境への取り組みができるようにするのが良いと思った。
城陽さんさんバスの路線の拡大希望は2つのグループから出たので、まずは必要なのではと思いました。
意見を発していた方々のほとんどが「ゼロカーボン」より地下水や少子化対策に目を向けてほしいという意見が多く、問題意識が市民間で可視化できていたものでありがたかったです。 また、トヨタが対策として講じた「脱炭素」「カーボンニュートラル」の実現ですが、もともとはG8間での先進国諸々に対して中国が（中国の影響を背後に受けた）アフリカや発展途上国の国連での意見重用が、「脱成長」「脱炭素」をプロパーとしたイデオロギーを通じて中国の経済圏を拡張させるという思惑があるといわれており、その内情は中国共産党の覇権主義のプロパガンダです。したがって、唯々諸々と「カーボンニュートラル」や「脱炭素」を標榜すれば、G8諸国のガソリン自動車の地位が危うい（日本の輸出品目の3割がガソリン自動車）ということです。仮に攻めを受けるのであれば、世界中のCO2の3割を排出している中国に脱炭素を訴えるべきでしょう。
自分が今、ゼロカーボンに向けて取り組んでいることが会議に参加されていた方も取り組まれていることが多く、小さなことでも続けられ良くなっていくのかなと思いました。城陽市は水道水がそのまま飲めることが当たり前で生活ができるけれど、他の地域では買わないといけないなど、普通と思っていたことが当たり前ではないということが分かりました。ずっと住んでいるけれど、知らないことがたくさんありました。年齢層の違う方とお話することで色々な考え方や感じ方があるなと思い、これからもっと勉強もして取り組んでいきたいなと思っています。
どういった人選をされたのかは不明確ですが、我々の班（第3班）は女性3名・男性3名の構成で（考慮されたものと思えるが）結構楽しんで時間を過ごしました。残念なのは、働き盛りの中間層の参加が少なかったことでした。話を伺っていて皆さんの考え方がある程度把握できて興味深いものでした。 テーマが大きいのでどうしても身近な話になったのは仕方がないことだと思います。ただし、やらないよりやるのが重要ですので、皆さんの思っておられることを吸い上げて市政に反映などをしてもらうためにも、できればこのような集いを拡げていただきたいと思います。 文書の内容については、城陽市の概要が参考になりました。他は特に目新しい点はなかったのでZEH(ゼッチ)は初見ですぐ調べて納得しました。

今後の「城陽市のゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと」について思ったこと、感じたこと
ごみの分別、節電・節水、エコバック、マイボトル、公共交通機関の利用など、個人でできることを実施されている人が多いことが確認できました。個人で取り組むことも重要ですが、社会（国・地方行政・企業・地域）が目標を明確にしてバックキャスト方式で取り組まないとゼロカーボンを実現できません。市が目標を明確に示して、市民に協力・協働を働きかけることが重要だろうと思います。京都府内の例として、亀岡市のレジ袋提供禁止条例は課題がないわけではないでしょうが、評価できると思います。 ゼロカーボンの実現は単独の課題ではなく、SDGs全体の中で捉える必要があります。そのためには啓発・教育、特に将来を担う児童・生徒に向けての働きかけが重要だと思います。文部科学省は学習指導要領改訂でESD（Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育）を位置づけました。教育委員会では是非とも検討して実施していただきたいと思います。
私たちの班では、空き家をリノベーションして、お年寄りの方々が集う場所や放課後の子供たちが勉強する場所をつくってはどうかという意見があった。城陽を生活の中心とされている方々がコミュニケーションの場を求めているということを知り、一見ゼロカーボンと関係のないような内容だったが、コミュニティを密にすることで無駄な移動の削減になるという意見に気づきを得た。他の班から提案された歩きたくなるまちというのも、この地域コミュニティに関わる話で、多くの市民が望むことだと考えられる。 また、城陽さんバスバスの利用可能エリア、本数についてどの班からも要望が出ていた。一方で、バスのみ充実させても利用者がどこまで増えるかわからず、黒字を維持できるか不明なため、バス利用でたまるポイントや自家用車にかかる税の増税などと組み合わせ、交通手段の大幅な転換が必要だと感じた。
身近にできることとして、自分自身は「マイ箸」「温度の調整」「雨水の利用」を今日から取り組もうと思いました。また、今後自転車の利用も検討したいと思いました。発表にもあった「空き家の再利用」「空地の再利用」を城陽市には取り組んでもらいたい。
個人が思い、考えておられることは、全体を通じて同じだなあと感じたり、こんな発想もあるんだなと感心しました。農家の方や個人でお店をされている方々のご意見も聞きたかったです。ご苦労や要望的なことなど。赤ちゃんから高齢の方々、どの世代にもやさしいまちづくりが城陽市の未来、発展につながると感じています。
城陽市で新築の家を建築するときは、太陽光パネルの設置を義務付けする条例を制定すべきだと思います。市役所で「エネルギーを節約・転換しよう」のパンフレットを作成して、1～7項目の具体的な実施方法でメリットがこれだけあると説明して市民にPR活動をしていただきたいと思います。
最も重要だと思うのは、2050年に城陽市が「どのような市」を目指すのかということです。どの程度の人口か、産業構成などを一定の方向性（もしくはビジョン）を出すことで、議論も深まりやすくなると感じました。私はカーボンニュートラルに向けてコンパクトシティ化は必須であると考えており、開発を進めるよりも旧市街の再開発が重要ではないかと思っています。都市計画においても、この視点が織り込まれることを望みます。
色々な世代への周知、広報。交通に利便性を。
会議に参加して参加者がゼロカーボンに対して個々に取り組んでいることは理解できました。しかし、その個々の取り組みが城陽市のゼロカーボンシティ実現にどのように貢献できるのかまでは分からなかった。 ゼロカーボンシティ実現までのロードマップを作成し、市のHPや広報「じょうよう」などを利用し、市民にアピールしてほしいです。ロードマップの各段階においては、城陽市の特性を生かした削減対策と吸収対策の取り組みが明確になれば、より取り組みやすいと思います。
・市に意識（取り組み等）を持たせるため、アピール方法を考える。認識が浅いため、具体的に示す。 ・目的や方向性を定める（ロードマップなど）。 ・国からの支援金の利用方法、またどれ位貰えるのか。 ・ゼロカーボンになるためには、吸収面について、現在の自然を破壊せず利用し、プラスに変えていく。
参加された皆さんがそれぞれゼロカーボンシティ実現に向けて、色々なアイデアを持っておられると感じました。異なる年齢、異なる生活をされている人々と意見を交わすことで、今まで持っていなかった視点や意識の改革につながると感じました。
もっと情報がほしいと思った。問題点はほかにもあると思った。
城陽市に住んでいる色々な年代、職業の人とお話することができて面白かった。自身が不便に感じていることが他の人も同じだとわかり、興味深い。班での話の中にあつたが、城陽市がゼロカーボンシティに取り組んでいることを知らなかったのも、周知が必要だと感じました。
大きな目標についてどう取り組みをしていくか、自分自身に考えさせられる会議であつたし、今後を考える良い機会を得た。
一人一人の小さな頑張りで少しずつ、CO2排出量を減らしていきたいです。

今後の「城陽市のゼロカーボンシティ実現に向けて必要なこと」について思ったこと、感じたこと
外出の時、できれば公共交通機関を使用したい。外食は自分に合った量を注文、または追加したい。家庭の生ごみは細かく切って水気を絞ってごみ袋（ビニール小）袋に入れ、まとめて大きい袋に入れて捨てる。
まず一番に感じたことは、「若い世代」の環境に対する意識を変えなければ、城陽市の未来は変わらないということです。私は高校生という立場で参加し、多くの学びを得ることができました。特に高齢者の方への取り組みです。城陽市は高齢化が進んでいて、豊かにするには高齢者の方の力を必要とします。自転車の使用の際の安全確保やポイ捨てをなくすなどが出ました。高齢者の方の意見がすごく大事だと気付きました。
実際に主体性を持って発言し、話し合う機会となったことは“我がごと”として課題を捉えるきっかけとなった。一世帯ごと、一人ずつが“我がごと”として捉えるために、各種イベントや啓発、施設による啓発活動について、民間企業のカモ借りて、市としてPRしていくことが有効であると感じた。特に子どもや学生への啓発が数10年後のゼロカーボンシティ実現につながると思う。”ゼロカーボン”の課題を単独で考えて解決を目指すのではなく、市民生活上生じる種々の課題と絡めた解決策を講じることが重要である。
一番は知る機会を作ることが大事だと感じました。知らなければ何も始まらないので、学校や幼稚園などで子供たちに分かりやすく伝えていくことが大切だと思いました。
まず、このような今回の会議のように、自分の住んでいる市の問題について考える機会が大切であると思います。私も今回参加して同じ城陽市に住んでいる人たちが様々な意見を持っていることを知りました。このように、みんなで自分の市について考える機会があれば、実現に向けての意識も高くなり、行動へとつながっていくのではないかと思います。また、今回の会議をきっかけ開催したからには、実現に向けて政策を立てていくなどの何らかのアクションが必要だと思います。
食品ロスなど、身近な視点から市民の人たちに知ってもらうことが必要だと思います。
ゼロカーボンシティ構想もとても重要ですが、同時にこの考えを市民に知らせること、具体的な行動目標を知らせることも大事だと考えます。
ゼロカーボンと言っても、各家庭単位からまちの取り組みまで幅広く問題を共有しベクトルを合わせる事が難しいと感じました。まずは城陽市としてイニシアティブを取っていただき、カテゴリーに合わせてゼロカーボンシティに必要なことを発信していただくことが必要なのかなと感じました。 当日も発言させていただきましたが、ゼロカーボンに取り組むには太陽光パネルの設置は不可欠だと思います。個人的には太陽光パネルは好きではないですが、最近はソーラー自体も様々なパターンの物が出て来ていますし、蓄電池も使いやすくなってきたので屋根に乘せるだけでなく、各家庭で取り組んだり市単位で、削減だけでなく作り出すこともしないとイケないのではないかと思います。初期費用のかかることなので理解いただくことが難しいかと思いますが、そこは常々ツールを駆使し発信していただくことが重要になるかと思っています。 太陽光パネルは設置だけでなく、運用が大切だと思います。城陽市は高い建物がないので発電は見込めると思いますが、市民に還元出来る使い方を提案していただくと関心につながり、協力も仰げるのかと思います。太陽光パネルで発電した電気を使い、バスの運行や電気自動車の充電に開放、電動自転車のレンタサイクルを運用するなど、いずれも利用料を徴収することで設置費の負担を補い、かつ自家用車の利用の削減を進めるなど、設置から運用まで提案することでやさしいまちづくりに貢献できるのではないかと思います。
市民側の意識改革にボトルネックを感じての活動なのかと運営の進行を通じて感じたが、運営サイドは事務局の方ばかりで、市に対して意見が伝わったのか行動に活かされていくのか不安。
車やガス、電気の使用を減らすなど。
節約、節電、食品ロスを気にかけて生活したいと思います。
自動車ばかりに頼らず、自転車をもっと活用すべきと思います。そのためには、自転車専用側道の設置（自転車専用レーンをもう少し広く拡幅する）。 キッチンとリビング一体型の場合、キッチンの換気扇を稼働している日は、リビングのエアコンを稼働しない。
城陽市に住むうえで私たちができることを考え、チームになって何個か意見を出し合いました。そこで出たアイデアの中で特に気になったのが、家の中で使える断熱材を使用した家具やカーテンを工夫することです。これにより、冬の暖房を節約することができるので地球温暖化の影響に適した取り組みだと思いました。
地域活性化について多くの人が同じように意見を持っていてうれしく思いました。企業誘致や地域のお祭り開催など、積極的に検討いただけると幸いです。

(3) 城陽未来まちづくり会議の運営について

城陽未来まちづくり会議の運営について思ったこと、感じたこと
参加させていただき、たくさんの気づきのある機会になりました。さまざまな年齢、生活スタイルの方々が集まることで、色々な視点での思いや意見があり、こういった機会を定期的に行っていただき、市民の声を聞いていただけたらなと思いました。ありがとうございました。
特に、JR山城青谷駅前の道路及び駐輪場の工事を早急に求む。雨の日、高齢の方や幼児の足元が悪い。また、青谷地区よりの路線バスの実施を強く願う。タクシーのみの実施だが、城陽市内で一番高齢者が多い青谷地区こそバスの運行を増やすべきだと思う。このような環境下ではますます若者が郊外へ行ってしまい、過疎化が進んでしまうと税収が減り、ゼロカーボンシティ実現に向けての資金（太陽光パネル設置のための助成金や、バスの運行費など）も難しくなることが予想される。ゼロカーボンシティ実現のためにはお金が要るので、まずは手入れされたまちづくりをすることで若者も増え、活気のある城陽市となり、色々なゼロカーボンに向けての取り組みができるであろう。
みんな城陽市がいいとこだなと思っているけど、昔からあるもの（道路とか）は変えるのは難しいかなと無意識に感じていると思いました。そこを市が動いて少しずつでもより良いものにすることで、市民の方の嬉しさは上がるだろうし、新しく来る方も良いまちだと思えるものになると思いました。 話し合った内容についてはきちんと確認して、精査して進めていってほしいです。
周りの方々が積極的に意見を出していて、グループ会議も緊張せず意見が出せて、貴重な良い経験ができました。
このような機会に参加させて頂いたことに感謝いたします。リモートでの開催ということである程度考えをまとめて話す時間があつたので良かったなと思いますが、話す機会が整理される分、コミュニケーションを取るという意味においてはやや難があると感じました。ただ、お子様がおられたりして参加しにくい方にとってはリモートのほうが参加しやすいと思うので、ハイブリッドな形で運営して頂けるといいなと思います。
4班に分かれ、丁度良い人数だった。私は1班でした。司会者が発言内容をまとめて話しながら進めてたので、内容がよく分かった。
様々な視点の意見を取り入れる上で、年代や性別が違う人達をグループ分けし、運営している点は良いと感じました。ただ、年齢層的に30～70代が参加割合の多くを占めている気がしたので、20代の若者への参加を促す工夫が必要と感じました。
初めて会議に参加させて頂きました。いろいろな年代の方と話や意見が聞けて、参加できて良かったと思います。考える良いきっかけになったと思います。
色々な年代の方々と話ができてとても良かったと思います。年代によって考え方や意見が色々あり「もっともだ」と思うような考えがたくさんありました。もし、次回可能であれば、職種によっても議論の場があると、より違った意見が出て良いアイデアが出るかもと思いました。ありがとうございました。
なかなかこのような機会に参加させていただくことがないのですが、自分と性別、年齢の違う方と話し合うことで、自分一人では考えられなかった意見を多く聞くことができたと思います。私にとってこのことはとても貴重な経験であり、とても勉強になりました。また、これからのものの見方も少し変わりそうだなと思いました。 城陽の未来が良くなるには、一人の意見だけではきっと難しいだろうと今回参加させていただき感じました。こうやって多くの人と話し合うことでメリットもデメリットも見えてきますが、デメリットの負担をどうやって軽減するのも皆で話し合えば良い案が出てくると思います。一般に暮らす人々と意見を交わし合うことは、城陽市の未来づくりのために大切なことだと思います。そして多くの方の様々な意見に触れられる貴重な会議に今回参加させていただき、ありがとうございました。
様々な世代、性別の方が集まるよい会議だと思いました。2班のファシリターが上手に場を進めて下さって良かったです。
年齢や性別に関係なく意見が聞けて非常に良かったと思う。
グループで話す中で、年代によって着目する所や視点、考え方が違うなと感じた。どの意見にも間違いはないと思ったものの、どうしても年齢が高い人の意見が重視されているように感じ、小さな意見にも目を向けていってほしいと感じた。意見をまとめる必要はないのかなと感じました。
オンライン開催という点が非常に良かったと思います。グループに司会の方もおり、スムーズな進行でした。

城陽未来まちづくり会議の運営について思ったこと、感じたこと
色々な方々と意見交流ができて大変良かったです。皆さん真剣に城陽未来まちづくりを考えておられるのが頼もしく、うれしくなりました。司会、進行の方へ、丁寧な運営、ありがとうございました。
脱炭素やカーボンニュートラルが「陰謀論」とされている言説について、市民の方々と話す機会を得られた。ネットや新聞で忌避されている「陰謀論」は、市民間でもその真偽が不明瞭で意思疎通が測れずに当惑していたので、なんとなく自分だけが陰謀論を信じているヤバイ奴だったのかなと思い、思い切って今回の城陽未来まちづくり会議において「カーボンニュートラル」や環境問題の誤謬を指摘してみると、意外と問題はゼロカーボンや脱成長ではなく、少子化対策や地下水、不動産に関するものが多くあったので、問題意識が良い具合に可視化されました。また、近年の中国における覇権主義もかなり多くの人が問題化しているとの認識があり、市民間での会話の大切さを改めて認識することができました。ありがとうございました。
コロナ対策で隣との席の間を広くとっていただいていたありがとうございました。日曜日に市役所へ行ったことがなかったので、入口が分かりにくかったです。案内の方がいましたが、正面の入口から見えませんでした。次回もあるならば、もう少しわかりやすい所に立つか、案内板（矢印など）があれば良かったです。
市から委託された事務局の関係者の方々、お疲れ様でした。進行は非常に難しいことなのですが、時間配分等(個人・班代表の見解発表)をもう少し厳格にされた方が良かったのではと感じました。例えば、2～3分/人、その後班での自由議論などXX分。最後の班代表の発言はYY分とか～（最初に各コーディネーターで決めておく）。メンバーの関心のあるものについて、班内や参加者同士での自由な話し合いの時間がもっとあれば盛り上がるし有益な意見も出てくるのでは。 例えば我々の班で出ている”太陽光発電”について。小生は反対ですが、賛否の議論も双方にとって有用と考えます。最初に戴いた資料「城陽未来まちづくり会議（55人委員会）」や後日配布されたワークシートは考え方をまとめるのに有用でした。ありがとうございました。
特に問題ありません。準備、ごくろうさまでした。
オンライン開催ということで、音声聞き取りにくい場面があったが、仕方がないという印象だった。ネット環境に関しては、事前テストや市役所からの参加もあり困らなかった。当日のスケジュールが冒頭に口頭で発表されたのみだったので、分かりづらかった。また、配布されたワークシートについても、当日までに考えておく必要があるのか指示がなく分かりづらかった。今回の会議は抽出された1,800人の中から希望者が参加するという形で、全市民の中から参加者を募られるよりも応募のハードルが低く、私も参加しようという気持ちになった。今後も同じ形で続けてほしいが、若者（学生）の参加者が少ない印象を受けたので、市内の高校で応募をかけるなど工夫がされてもよいと思う。
事前の資料（ワークシート含め）をもう少し早くいただけると、事前準備に時間をかけられると感じました。
こういった目的なのかよくわからない。次回は託児の対策を取ってほしい。
今回は委託された事務局の皆様がファシリテートしてくださいましたが、もう少しポイントや参加メンバーにターゲットを絞り、議論が進みやすくしても良いのではと感じました。 また、SNSなども活用し、よりライトな形で意見募集も有効ではないかと思います。 予定が入ってしまい、フルに参加できず申し訳ありませんでした。もしフォローアップの必要があれば対応させていただきます。皆様、お疲れ様でした。
定期的にこういう機会があってもいいと思った。
オンライン形式で様々な階層の市民が集い、その方々のご発言をお聞きする場は有意義であると思いました。司会進行された事務局の皆様、ありがとうございました。 事前に会議のレジュメがなかったので、いただいたワークシートに従って参加者が個々の取り組みを発言し、まとめていくのかと思っていました。会議のまとめが分かりにくかったので、市が意図した成果が得られたのかどうかは分かりませんが、市の施策に少しでも生かしていただければうれしいです。
今回のリモートによる会議は大変有意義があったと思います。市民の声や願望を直接聞くことが出来た。城陽の未来のためにも、市内はもちろんだが、市外からも興味を持ってもらえる市にしていける（ふるさと納税など、インパクトがない）。市の方向性を市民に広く伝えてほしい。ありがとうございました。
市民一人一人の意見をしっかり聞いて会議を進めていただいていたと感じました。またグループの構成も若手から年配の方までバランスよく配置されていて、いろんな考えを聞くことができたと感じました。
緊張はしましたが丁寧な進行で、安心して参加できました。
班に分かれた会議の途中で、記録係でまとめている方のマイクがオンになって、聞き取りにくいシーンがあった。事務局の方のとりまとめは分かりやすくてとても良かった。

城陽未来まちづくり会議の運営について思ったこと、感じたこと
市に要望は多くあるが、地道に続く取組に取り組んでほしいのとアドバイスが必要だと思う。今後もこういう機会を作ってほしい。
今回の会議は特に不満点もなく、有意義な話し合いになりました。
先日のような会議は、市民を参加者に加えたことが市民の声を生で聞く良い会だったと思います。時折このような会が開かれ、誰もが気軽な姿勢で参加できたら良いと思います。
今回のような会議を設けてくださり感謝しています。自分としては学校だけの学びであったので、このように社会人の方の意見はとても勉強になりました。また、これからの城陽市を真剣に考えられる良い機会になりました。高齢者の方の意見は特に勉強になりました。このような機会を定期的にや自治会ごとに行うと、もっと城陽市が豊かになる機会が増えると思います。
本会議での市民の発言が、どのように活用されていくのか、具体的にその後に示してほしいと感じた。 市民側の発言をファシリテーターの方がコントロールすることの難しさを感じた（知識量、想いの熱量などの個人差が出席者側にあるため）。作為・無作為の集団で、このような考える機会を増やして欲しい。
初めての参加で他と比べることができませんが、リモートなので参加しやすかったし、サポートもしていただけたので良かったです。
この取り組みは、城陽市の成長のためにもすごく良いものであると思います。だからこそ、もっと開催する回数を増やしても良いのではないかと思います。また、オンライン開催をしていただけたのはすごくありがたかったです。このような会議を開催し、本当に実現に向けて動いていくのであれば市民だけで話し合うのではなく、市の職員の方々、地元企業の方々なども交えて行ったほうが、より深く、かつ現実的なものになるのではないかと思います。
このようなイベントを無作為ではなく、事業者なども含めて行うべきだと思います。
おそらく、この会議に参加しなければ市政に関心を持つことはなかったと思います。このような会議が今後も開催されることで、一人でも多くの市民が城陽市について考えるきっかけになればと思います。
失礼を承知で申し上げますが、城陽市は京都の他のまちに比べて取り組みが遅いように思っていました。そのせいか、市民に無関心の方が多いように思います。市が変わろうとしている、何か起こそうとしていることをもっと広める機会を作って、市民を巻き込んだ取り組みにされるほうが良いと感じました。 城陽市は全体的に昭和に建てられた家が多いのもあり、若い世代より高齢者が多いように思います。本来、まちが活性化するのは若い世代の転入だと思っていますし、そこに力を注いでほしいところではありますが、高齢者を無視したやり方でもできないと思います。したがって、皆さんの思いや困りごとなどを吸い上げるにも古典的ですがアンケートなど行っていけばどうかと思いました。 高速道路、アウトレットができることは城陽市にとって大きな変革期と思っています。整備をして行くにも今が良い時期だと思います。城陽市を自慢できるまちにしたいです。ゼロカーボンだけでなく、防災にも力を入れてほしいです。幸い城陽は大きな天災にあうことはなく幸せなまちだと思いますが、災害を考えるのも未来であると思います。 東京の公園のように、ベンチが災害時にトイレやかまどに変えられるなど自分の市がそんなことまで想定して市民のために考えてくれていることは大きな財産でもあり、何より市民の安心につながると思います。市が自分たちのために考えてくれていると思うと協力にもつながると思います。これからもどうか城陽市のことをお願いします。 今回は参加させていただきありがとうございました。世代が違えば抱える問題や意見も異なり、皆さんの意見が聞けて貴重な経験と良い機会になりました。
城陽市がゼロカーボンシティの取り組みをしていることを知りませんでした。私のグループの若者達がしっかりしたご意見をお持ちで素晴らしい一言につきました。今後は私なりに節約、節電、食品ロスを気にかけて生活したいと思います。
このような機会を作ってください、ありがとうございます。城陽市について考えることができてとても良かったです。また、私が知らない設備や取り組み、イベントについて知ることができました。何か役に立ちたいと考え、最後の発表でパワーポイントを作成し、できるだけ分かりやすく伝えるお手伝いをしました。このように地域の方とコミュニケーションを取ることができて良かったです。
・城陽市の50年、100年、5000年先のビジョンの作成（緑と太陽のまちだけでは発展なし。他の市町村の取り組みを参考に勉強会をしてほしい。私も勉強したいと思います）。 ・市の赤字解消策。 ・市の縦割り行政の解消。 ・城陽市が未来まちづくりについてどう考えているか、どうしたいかを公務員、関係者に問う。 ・少子化対策。人口が減っては未来まちづくりはない。
様々な方面からの意見が聞けて、大変良い機会になりました。別のテーマについても、また同様のイベントを企画いただきたいと思います。

注：記述による回答については、漢字への表記替え、句読点や誤字脱字の訂正、表記の統一以外は原文のまま掲載しています。

城陽未来まちづくり会議（55 人委員会）報告書
令和5年（2023 年）3 月

【編集・発行】

城陽市 企画管理部 秘書広報課

〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口 16 番地、17 番地

TEL 0774-52-1111（代表）

